くりすます號

女子青年界

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正六年十一月二十八日印刷納本
大正六年十二月一日發行（毎月一回一日發行）



要目

大正六年十二月號
第十四卷第十一號

女子青年界目次

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切
外國人交際用贈答用品充實完備
內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地
辨天商會

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugakucho, Kanda, Tokyo.

ヴォーリズ建築會社

近江八幡町

東京支店　東京基督教青年會同盟本部內
東京市神田區表猿樂町

和洋折衷住宅專門

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい

THE HAKODATE AMERICAN JAPANESE TRADING COMPANY

IMPORTERS HT **EXPORTERS**

Choichiro Watanabe — *Pres. & Treas.*
Kisaburo Hirade — *Vice-Pres.*
Nobrjo Kawai — *Secy & Bus. Mgr.*

營業目錄

北海道海産物直輸出業
北海道農産物直輸出業
米國農工具機械直輸入業
歐米雜貨直輸入業
問屋代理業

函館區船場町十二番地
函館日米貿易商會
電話八百二十五番
電略 ニチヘ

專務理事 渡邊長一郎
理事 平出喜三郎
支配人 河井信三

American Bible Society.

改譯新約聖書

四六版六三〇頁 クロース天金
定價金八十五錢

改譯聖書いよ〳〵出版の運びに至りました。基督の眞理は愈々高く輝きませう。我々の爲め、否、廣く人類の爲に世上の幸福であります。新らたに譯成れる聖書、速かに一冊を坐右に備えて、基督の福音に新らしく耳を傾けられよ。

各國語聖書發賣所
横濱市山下町五十三番地
米國聖書會社
電話横濱五〇五〇番 振替東京壹八四壹

主張

社會の改良、風紀の廓清
男女の貞潔、家庭の和樂

月刊雜誌 **廓清** 一部八錢

廓清會員へは毎號無代配送す。
廓清會規則入用の向は申越次第送附す。

東京市芝區
三田四國町二
廓清會本部
電話芝五八五貳番
振替口座東京貳七〇七五番

前付七

斯界妙手の樂の調べ!!

場所　神田美土代町　青年會館内

日時　十二月十五日(土曜日)午後二時より

音樂會

女子青年會日本々部事業費の爲

主催　日本基督敎女子青年會本部

切符　二圓、一圓、五十錢

斯界妙手の樂の調べ!!

ヴィオリンソロ	ミス　マギー
所作	ミス　シエレセスキー
獨唱	ミス　オールチン
ピアノソロ	原みち子女史

十月廿日東京基督教女子青年會館に開催せし
世界めぐり(バザー)賣店の内



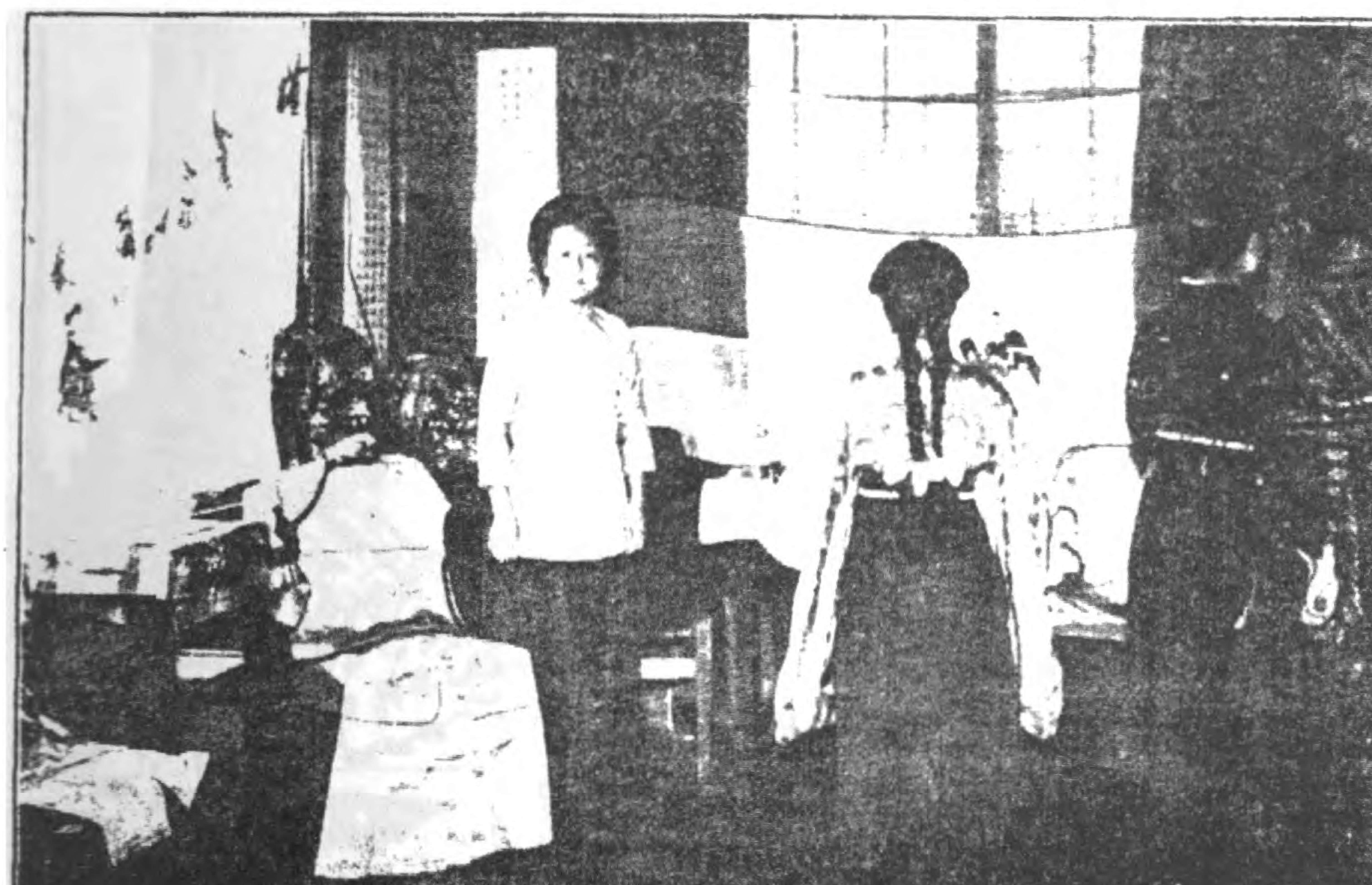
(一) 日本北海道名產賣店



(二) 朝鮮名物飴人形賣場



（三）印度更紗其他名物賣店



（四）支那人形其他名物賣店

第十四巻
十二月號

女子青年界

大正六年十二月一日發行

祝クリスマス

日本基督教女子青年會本部

會友誌友諸姉

一、みそらにひゞくは　なにのしらべぞ
　あまつみつかひの　たへなるみうた

二、たふとき御神に　みさかえあれと
　いしくも合ひたる　うたのこゑかな

三、めぐみのおとづれ　たかくあめより
　この世のはてまで　ひゞきゆくなり

四、すくひの御神は　うまれたまひぬ
　あめつちむかへて　きみとしあふげ

會說

受くる道

河井道子

一日某雜誌の記者が訪問されて次號にはクリスマスに付ての意見を提出したいから何か話せよとの事で最早降誕祭の仕度時が切迫したのに驚きました。私の意見とて別に嶄新しいものはなく毎年々々「受くるより與ふるは幸也」との聖句を實踐躬行の外ないと述べましたが、記者の歸りし後に熟考てみて、今年のクリスマスの持來たす教訓は、「與ふるの道」に「受くる道を」附加したものであらふ、是非此二ッを諸姉にも考へて貰ひ度と存じました。實に他に與へんとする志望ほど美しいものはありますまい、是が犧牲の獻身のと申す花や果となり此世を美化するのであります。クリスマスは、神樣が最上の賜なるエスキリストを此世に我等のために下されたので、此れ以上の賜物は神樣にはなかつたのであります。其で我等が如斯高貴い賜を受けて居るに感激して、其返禮の萬分の一にもとして御互同志に僅計の物でも贈り合ふのであります、決して、世の一般に稱する、中元や御歳暮の意味でないのは皆が御存じで居られましよう。

抑信者として外に顯出れる第一の德は多分他に與へると申精神でありましよう。物質でも又物質以外に假令ば骨折や時間を人の爲に與へるのは同情や親切や愛などの原動力から湧出して來る結果であります。遂に夫等が高調されると人道のため正義のため

地位、財産はおろか、家族も己が身をも捧げる樣になります。日本では昔より忠臣義士が家を捨て身を捨てたため後世に祭祠られる樣になつて居ります。何れの國にても眞に己を他の爲に與へる程の美談はありません。其處で人其友の爲に命をすつるは此より大なる愛はなしと基督が仰になり、御自身が其模範をたれ給ひました。私共には自分の身を捧げる事を要求される如き大名譽を擔ふことは殆どありますまいが、時々刻々自分の力に相當した捧物は要求されてゐます。時間と云ひ、献金といひ、手傳といひ即ち直接に物質的の報酬がない場合、却て損失らしく思はれる時にも進んで與へる精神を養ふが信者の活きた敎育であります。是も神が雨を降し日を照して自然界の恩惠を下し給ふ外に、親子、夫婦、兄弟朋友等の溫情を豐に下し、克巳、向上、聖地の道を施し給ひ、尙其以上に神の子エスキリストを我等に賜ふた此恩寵を眞面目に思惟べきであります。

扨て又受くると申す事は容易の事らしくして決して容易の事でありません。貰ふならば夏も小袖と申す俗諺もありますが、利慾からして貰ふのは容易でも、利害損得を離れて受けると申すことは修養のない者には到底出來ぬことであります。與へる人の眞心を掬み、其芳志を喜ぶ如きは中々六ケ敷ものであります。誰でも欲いと思ふものを貰ふは嬉しく、高價な品物ならば珍重もしましようが、贈物が金額のかゝらぬものであり、普通の物でありなどする場合は如何でしよう。田舍などへゆきますと、無敎育な女達が、何か他から貰ふたりすると、先第一に、幾程するかと金高を推計り其で難有さの上下をつける事が屢々あります。

幼い子供に母親が「此着物は高價のだから大事にせよ、此菓子は高價のだから有難がれ、學校にやるのは御金が澤山かゝるのだから遊ぶな」などゝ聲たか〳〵に申すのは只に田舍にのみ限りません。かゝる志想を持つ者は割合何度にでも多いとおもひます。或時に幼稚園の先生が一生懸命に子供達に紙片で栞

や、カードを作らせ其を各家に持たせて兩親や兄姉への贈物にさせました處、貰ひし大人の方では却て迷惑がり、「何だ、人馬鹿にして、這麼紙切など役にも立ちはしない」と申したとかで子供達は失望し先生は共に同情して涙ぐまれしことを知つてゐます。假令紙一片なりとも己より幼きものゝ力足らぬ者が折角喜ばせ度とおもひ贈りし物を滿腔の喜悦で受納ことの出來る人は人情の至深に達した人でありましよう。其で又思出すのは紐育で實見した某幼稚園のクリスマスです、此所は、金持の信者の家庭から參る子供が多數で、クリスマスの時には彼等は玩具を澤山持つて來て、他の子供に贈り手製のカード等を友達に贈るのであります。當日母親達も列席して遊戯や唱歌を見聞して欽然としてゐましたが、やがて兒童達が、隅の方から、一個一錢位する植木鉢に小な松を植えてあるのを持出し、各目の母に贈物として渡しました、此松は秋頃に遠足にゆきし時に先生の指圖で抽て來て、幼稚園に持ちかへり、毎日水をやり、日に照して培養しクリスマスに母さん方を驚かせ喜ばせることにしてあつたのです、此金の價なき小な鉢を貰ひし母親達は何れも己が子供を抱〆て「難有う」「嬉しい」、「美しい」などの言葉を發して千萬金を得てもかくは笑顔が出來まいと思はれる計に喜悦の溢れし彼の光景は忘るゝ事が出來ません。其時私の心に、神樣が我等の廢物に等しき捧物でも眞心で捧げたらば如斯御嘉納下さるものかしら、勿體ないことだ、又我等も他よりの品物でなく赤心を是非よろこぶ樣になり度ものだと敎へられた事があります。

爰に私共の注意して考へねばならぬことがあります、其は神樣の贈物は懲戒となつて來ることもありますし、困難となり、苦痛となり試錬となつて來ることがあります其時に、是を受ける態度は如何でしよう。御菓子を貰ふは嬉しく藥を貰ふは辛苦と云ふ子供の經驗より以上に成長する事の出來ない者が多數ではありますまいか。更に又惡友毒舌は愛慕され、善友良舌は輕侮され、不義は歡迎され、正義は

排斥さるゝ如き事實が個人、家庭、社會に於て往々にある事ではありませんか。神のパンを與へんとし給ふと我等は石を貰ひたがり、惠を與へんとし給ふと却て鞭を貰ひたがり、聖靈の代りに惡魔が欲く、神の國より此世の財寶が受け度い事はありませんか。斯る邪曲りし心の私共に神が獨子エスキリストを降し給ひましたが、私共は此基督を何程の歡喜を以て御受けいたしましよう。光は世に來りしも人々却て暗を愛せりと聖書は申しますが、基督を迷惑がる者が昔より今に至る迄無數であります、大盜賊、大犯罪者バラバを我に與へて、基督を十字架につけよと呼びし昔のユダヤ人に私共も或場合には共鳴する如き傾向はないでしようか。神は獨子を世に遣しゝに其民是を受けざりきとは世界の者皆にあてゝの神の御歎息御失望の聲でありましよう。人の眞心や親切を受けぬ者は人情に背くものとせば、神樣が最大の賜なる基督を賜りし其至愛を無視する程罪深いことはありません。先づ何ものよりも 私共は 救主エス、キリストなる此最大の賜物を兩手を擴げて歡迎し、我等の哀心に入れ奉り感謝して此贈物を頂戴したいものであります、かく誠に受くる價値を知る者でなくては又眞に他に與へる道をも知る 者で は ありません、基督を受けるによりて、何を人に與へてよいかが始めてよく了解されます。

願くば此降誕祭を迎ふるに當りて受くるの道と與ふるの道とを兼ねて味ひ度ものであります。

それ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲めに救主うまれ給へり是主なるキリストなり。爾曹布にて裹し男兒の槽に臥たるを見ん是其徵なり。倏ち衆の天軍あらはれ天使と共に神を讃美て曰けるは、天上ところには榮光神にあれ地には平安人には恩澤あれ。（ルカ傳第二章十一―十四）

エスの同情と愛

外村義郎

四福音書を繙きエスの御人格に就て研究してみると種々學ぶべき點がある、例へば彼の信仰、忍耐、從順、謙遜、勇氣、大膽、同情、愛、尚其他にもある樣に思ひますが、今日は其中よりエスの同情と愛の二點に就いて共に學んでみたいと思ひます、同情にも種々あつて例へば單に同情一滴の涙を流してそれですましてしまふ樣な所謂通り一片の同情もあり又若干の金錢や物品を與へて、其で我事終れりとする樣な同情もある、然し又よく其事柄を調らべ深く研究し、それが爲めに心配もし苦勞もして何處々々までも其人々の益をはからふとする同情もあります。

さらばエスの同情は何樣であつたゞらふ、思ふに只今第三に申上げた樣な同情の更らに深いものであつた樣に思はれる、普通には同情と云へば喜ぶものと共に喜び悲しむものと共に悲しむことであるがエスの同情はもつと深い、それ以上である、即ち人々の心の奧底に分け入つて其魂の益をはかる同情である、彼のニコデモと云ふユダヤ人の宰が夜ひそかにエスのもとに來りラビあなたは神より遣はされた師なりと知る、そは神もし人と偕ならずば、あなたが行ふ樣な休徵は人に於ては行ふことが出來ぬと申しました時にエスは爾は新たに生れずば神の國を見る事は出來ないと仰せになつた、それがエスの同情である。

エスがエリコの市を通行なされし時に稅吏の長でザアカイと云ふ富者があつた、エスは如何云ふ人か見たひと思ふて居つた、すると幸ひ近くをお通り

になるときいたので、走り行きたる處大勢の群集にさまたげられ見る事が出來なんだ、其處で彼れは路傍の桑の樹の上にのぼつて見て居つた、するとエスは其れを見たまふてザアカイか急ぎ降りよ今日我れ爾の家に宿らんと仰せられて、彼の家に宿り給ふたそしてザアカイと其家族は其日に於て救ひの恩惠に與ることを得たとのことである、此處にも亦エスの深い同情が現はれて居る。

尚一つの例をあぐれば、彼の癩瘋を病んで居た人の話である、彼は癩瘋にかゝり全體が不自由でくるしんで居つた、彼れには四人の友があつて深く彼れに同情し其病氣の癒されんが爲めにエスのもとにつれて行つた、彼等の要求は其病氣の癒されんことであつた、然るにエスは、子よ爾の罪はゆるされたりと仰せになり、遂にまた其病氣をもお癒しになつた此處にも亦エスの深い同情が現はれて居ると思ふ、尚此他にも此くの如き例は澤山あります。

實にエスの同情は考ふれば考ふる程深い同情であることが分る、エスが比喩をお話しになりましたうちに、百疋の羊のうち一匹の羊が迷ひ出た時に牧羊者は九十九匹を野におき往きて其一匹の羊を尋ぬるのである、然して牧羊者は其羊をたづね出すまではやまんのであると仰せになつて居る、思ふに牧羊者は山を越へ谷を渡り或は林に分け入りあらゆる患難辛苦を經て其の一匹の羊を探がすのである、探し出さなければ止まぬのである、之れはエス御自身の同情をよく言ひ現はして居ると思ふ、エスはあらゆる患難辛苦をなめ我等の心の奥深く分け入り、其處に罪に沈んで居る死に頻せる我々の魂を見出すために努力し給ふのである、之れ即ちエスの大なる同情であります。

顧つて思ふに、我々信者はエスの如き同情をもつて居るであらふか、我々の周圍にはニコデモの樣な基督敎の賛成家も居る、此くの如き人々に向つて、あなたは新しく生れかはらなければ神の國を見る事は出來ぬと嚴肅に云ふてきかせた御同情があるでせ

ふか。
或はザアカイの樣な切にエスを見たひ、換言せば基督教を知りたいと希ふて居る樣な人々に出會ふた時に、自ら進んで其家庭を訪問し、其人々を救ひに導くと云ふ樣な同情があるでせふか。

或はまた彼の癲瘋病の人の樣に、たゞ肉体の病さへ癒さるれば、それにて足れりとして居る樣な人々に對して、爾の罪赦されんためにエスに來れと、すゝむる樣な同情があるでせふか、之れ等の點について深く神の前に考へていたゞきたいのであります。

兎角我々は、うはべの事や目に見ゆることには同情を表します、彼の不幸なる孤兒、或は病人、または貧しき人々を見ては之れに同情します、然かし我々は靈性上の孤兒、靈性上の病人靈性上の貧者に對して、どれ程同情して居るであらうか、加之も之れ等の不幸なる人々が自分の家庭の愛する人々のうちに或は親戚朋友或は同級生同勞者等のうちにあるのではありますまいか、我々はそれらの人々にどれだけ同情をもつて居るでせふ、之れ等は深く眞面目に考へなければならぬ點であると思ひます。

次にエスの愛について考へて見たいと思ふ、福音書中にエスは愛について種々敎へて居りたまふ、爾等心を盡し精神を盡し意を盡して主なる爾の神を愛すべし。また己の如く其隣人を愛すべし。或は人其友のために生命をすつる之れより大なる愛はなし。或は爾等互に相愛すべし。尙此他にも澤山あります、然しエスは唯言葉を以て愛を敎へ給ふた計りでは無く、エス御自身が愛の人であつたのである。

我來るは人を使ふためにあらず、人に役はれ己の命をすてゝ贖とならんためなりと仰せられし如く、彼は終日終夜人々のために勞苦しあらゆる嘲りと罵りとを忍び、遂に十字架上に血を流して罪の贖と赦しの爲めに死に給ふたのであります、世の中には義人の爲めに死ぬる者は殆んど稀でありますが仁者のためには死ぬ事をいとはぬものもありませふ、然しエスは我々の罪人たる時に十字架上に犧牲的の死

をとげ給ふたのである、此處にヱスの愛は實現せられて居ると思ふ、先きに申した牧羊者と羊のたとへ話しの續きを讀むと、彼の牧羊者は迷へる羊を見出し、疲勞をもいとはず其羊を負ふて家に歸ったとある、之れ實にヱスの愛を能く云ひ現はして居ると思ふ、ヱスの愛は罪無きヱスが人々の罪と苦痛とを負ふて其みがはりになる處の愛である、まことに大なる愛ではありませんか。

我々はヱスの信者として今申した樣なヱスの愛をもつて居るであらふか、眞に人々の心に同情し其魂を愛し、人々をして罪より救はれしめんがために、どれ丈け努力致して居るであらふか又其人々に代つて幾度悲み或は祈つたであらふか、深く自ら考へてみたいと思ふ。

近來、青年會とか、婦人會とか、或は處女會とか云ふ樣なものが大分盛んになりつゝあるとの事であるが、それは誠に結構なことである。然し盛んと云ふのは、五百人集まつた、千人集まつた澤山人が集つたから、それで盛んだと云ふ譯のものでは無い、どうしても只今申上げた樣な同情と愛の情神が充實したものでないならば何の役にもたゝぬことゝ思ふどうぞ皆樣がほんとうに、その樣な會に於ても同情と愛の精神にみちて能力となり生命となつて大に盡力して頂きたいのであります、佛つくつて魂の入らぬ働きに何の能力がありませふか何の生命がありませふか此處に皆樣の大なる努力を要するのであります。

此くの如く申しますと、そんな重大な責任を負ふことはとても自分らの信仰では出來ませんと悲觀なさる方があるかも知れません、然し之れは勿論、自分の智慧や能力丈で出來るものでは無いのであります、たゞ同情と愛にみち給ふ主ヱスの御前にひざまづき、專心一意祈りますならば、ヱスは我々に聖靈を與へ能力を與へて之れ等のことを成しとげしめ給ふのであります、何卒皆樣がヱスの御前に熱心なる祈りを捧げ、聖靈の助けを得てヱスの同情と愛の精神にみたされ主のため人のため、榮光の現はるゝよき働きを爲し給はんことを切に願ふ次第であります

キリキトを信ずるの理由

植村正久

信ずると云ふ事に色々ある、醫者を信じて藥を飲み先生を信じてその門に入る、別に不思議な事はない、其所で基督を信ずると云ふのはどんなものか、何か變つた意味があるものか。之は確かに變つて居る、結局吾々の魂の成行、罪の取扱ひ、死後の始末等を全然お任せすると云ふ事である。吾々生き甲斐のある生涯をもつの工夫、永遠迄續く靈魂の安危存亡につきての見込み、この二問題を提げエスと語らばエスは如何に之を取扱はるゝか、これ程の事を賴んでやつて貰ふ人は神の他にないと云ふ事が認めらるゝならば必ず神を知る事が出來るのである、まづエスを相手にしてエスがもし救ひ得らるゝならエスは神である、基督を信ずると云ふ事はその靈魂と、到底人間の力に及ばぬ生命の取扱ひとをエスに托し、仰の通りに水の中にも火の中にも這入ると云ふ心持が信仰で、理屈の上に於て解するのでなく吾々の靈魂を托しそれに宮仕へするこれが即ち基督を信ずるので、それが出來て始めて信者である。疑があつても理解出來なくても惡癖があつてもこの意味に於て信じられるかどうかゞ問題である。其處で基督を信ずる理由を擧げれば、

一、エスは確かに在りし人、と云ふのは阿彌陀如來を信ずる一向宗の信者は非常に熱心であるが、其の阿彌陀は在つたものかどうか、法藏比丘と云ふのが阿彌陀で經文には極僅か出て居るのみだ、一々質問でもするなら何處の馬の骨だか解らなくなる、唯有難い慈悲深いと云つて如來に一切を托して居る、それに比較するとエスの事は雲泥の差である、エスは

確に在つた人、歴史上の人物である。

二、婦人と基督の關係、基督と婦人は實に因縁の深い方である、基督の顔を畫いた書は澤山世に殘つて居るが皆想像で書いたものである、米國の有名な牧師ビーチユアーと云ふ人は基督の顔の書を集めて一書を作つて云ふに、羅馬人でも希臘人でも何處か特徴があるが基督の顔として書かれて居るものは一樣に愛と同情とが現れて居ると。此點からして考へて見ると私は基督と婦人とは親類同士であると思ふ、孔子や釋迦を眞似する事は婦人として相應しくない樣に思はれるが、基督の事は全然眞似する事が出來るなら立派な婦人として疑ひがない、寧ろ婦人たるの魂を徹底させると思ふ、精神上親類同士で近づけば近づく程德性を發輝するに相違ないと思ふ。

三、基督實名はエスである、ユダヤ人傳來の理想として基督と云ふのは偉い人物で神の國を建てる者であると認めて居つた、メシヤと云ふ事で彼等は昔からこの人を待ち望んで居つた。とても普通の人間に望むべからざる品位、權能、威力を備へられたナザレのエスは三年間彼等に傳道されて居つた間に、不思議にも基督はエスであると認められた、又更に不思議の事は彼等は神と基督とを同一視した、これは種々なる研究をして結論に達したと云ふのではなくして、交際して居る間に神と同じに思はれて來たのである、これは實に不思議で少なくともそう云ふ人は他にない、彼の生前も死して間もなくもナザレのエスは基督で神と同樣に扱かはれ、神と同じ權能、價値を持つて居らるゝと信じられた、この感じは彼等許りではない吾々もエスと共に居れば何だかそう思はれる、それが神を認めた時である。

四、基着は無罪の人、昔ソクラテスの弟子が彼の所に來て世間には先生の事を惡しざまに云ふ人があるが事實かと尋問した、其時彼は無論事實ではないが自分で考へて見ると惡事をしかねまじき惡分子が在る樣であると云はれた、偉い人は偉い事を云ふものである、誰でも他から惡く云はれた場合、勿論そん

な事はないが全然惡分子がないと斷言出來るであらうか、人間は誰でも缺點、間違、惡癖、罪を意識して居らぬ者は一人もない、その人間の中で基督一人は決してそう云ふ事がない、隨分世間には自惚で斯く思ふ人もあるが基督は最も淸い透明のお方で罪を認められて居らぬ故、神の前に出て少しも羞る所がない、御自分では一度も神に懺悔をして居られない、一體罪と云ふ感覺は基督の賜物である、基督について教を聞いて罪を知つた、エスが罪を知るの本家でありながら御自身は罪を認められない、實に人間にあるまじき事があつたものである、此處に到るとエスは實に不思議な超自然のお方であると云ふ所に考が進む。

五、エスは神の子、そも宗教は神と人間との關係即ち神の子たるの心持が宗教である、所が吾々は中々神の子たるの心持になれぬ、我儘で神の御旨に從ふ事を好まぬ、如何に祈をする事が骨が折れるか、又一度は神の子となつた樣でも直きに後戻りがする不良少年の根源をはく樣になる、神の子となる事はむづかしい事であるから、よく考へねばならぬ、又神の子になりかゝつたと云ふお考があるなら、如何にして其心になれたか、自分獨りでなれたかと問ひ度い。澁柹も甘い柹に接木すると甘い柹がなる吾々も澁柹同樣である、初めは神の子と云ふ事は夢にも知らなかつたが何時か神の子となり又なりかけて來た、それが又彷徨き出す、丁度漫遊病にかゝつた感じがする、然し基督に於ては何時頃から神の子となつたかと云ふと其の根跡を認める事は出來ぬ、基督は初めから正しく根本的に神の子である、これは疑ふ事の出來ぬ事實である。結局換言すればエスに於て宗教は圓滿に徹底的に殘る所なく實現されて居るのである、エスは宗教の體現で神の子たるの姿を現はして居られる、これは他に求められない點で、實にエスは神の獨子である基督は天から降つたか地からわいたか、どうしても天下つた人間の一粒種子に違ひない、その神の子たるエスが何であんな苦痛をされた

か例へば吾々自分に惡い兄弟があるとしたら身を切られる程辛い、どうか善い人間にしやうとして涙を流して神に祈る其處が人間世界でよい所である、兄弟の罪を自分が負ふこれに依つて或は悔ゐ改める、此の場合に姉妹の健氣な心を痛めるではないか。其處で基督は人間の罪惡は神の前に勿體ないと思つたそれが實に神の子たる心持ちである、若し人間が罪を犯しても苦痛に思はれなければ神の子ではない。基督には非常なる苦痛があつたこれが十字架である神の前に吾々の罪を勿體ないと思はれて吾々を救はんとし給ふ確に救はれる力があるのである、エスには吾々を同化し得る尊い有難いお心持がある、それに吾々が寄縋からぬか、自分の姉妹が血涙を以て導びいてくれるのを斷ることが出來るか。エスが斯く十字架の苦痛を忍ばれて吾々を救つて下さるのに脊を向ける事が出來やうか。基督に吾々の魂全體をお任せしてはどうかこの魂の大手術をして下さる樣にと願ふ大決心が信仰である。醫者に肉體を任かして大手術を受ける事が出來るに、どうして魂をエスにお任せする事が出來ぬか、出來る筈と思ふ。基督は神の言葉である、神の言葉は聖書に現はれて居る。吾々が心を落ち付けて聖書を讀む時に基督がわかり神がわかるのである。

照憲皇太后御製五首

ひとりのみ思ふ心の善惡も照しわくらん天地の神

夜光る珠もなにせん身を照す書こそ人の寶なりけり

獨り立つ身となりし子を幼しと思ふや親の心なるらん

思ふこと思ふが儘になれりとて身を愼まんことを忘るな

雨だりにくぼみし軒の石見てもかたき業とて思ひすてめや

細民生活狀態と幼兒保育事業

內務省地方局　生江孝之

富める者は益々富み貧なるものは益々貧になるといふのが此頃の有樣である、貧民の增加して來る事實に不思議な程である、外國では前々より方法を盡して硏究し統計表等も種々出來て居る、しかし我國では遺憾ながらこの點は行屆いて居らない、此頃は日本でも成金が續出し貧富の懸隔が益々甚しくなつて行くが、外國では此れどころではない、英國の貧富の懸隔につきエルシーモネーといふ人は左の如く云ふ、英國で年額七千圓以上の收入ある者を上流と見ればかゝる者は全人員の二十五分の一、其收入は英國全收入の三分の一、中流に屬する人々にして年一千六百圓以上、七千圓以下の收入あるものは、全人口の二分の一、其收入は全收入の七十五分の一、下流階級にして年一千六百圓以下の收入ある者は全人口の十分の九、其收入は英國全收入の二分の一、即其日暮しの者が一千萬人、其中公費の救助を受くる者が四百萬人これが世界の富國たる英國の有樣である。ニユーヨーク市細民の狀態はロンドン市の其れより一層甚しい。同市には細民と稱すべき者が六七十萬人あり殊に其住居に至つては實に遺憾に堪えないものがある。四十階五十階の建築物が甚だ多く如何なる貧民の家も五階六階を降らない、而して建築物の奧行が非常に長い上に、建物と建物の間がつまつて居るから、後方若しくば前方の道路に面して居る室の外は悉く暗室といふわけになる、其暗室の數が實に全市で三十五萬室にのぼる、市は非常な努力を以つて改造して居るが、それでも今より八十年かゝらねば全部改造の運びに至らないといふ、彼等

細民は一日中屋外で働くので家賃の節約から、競ふて暗い部屋を借り受けるのである、彼等は一日中、外では勞働と壓迫とに耐え、疲れ切つて何の娯樂も無い其陰氣な暗室に歸つて來るといふ始末故、自然彼等が飲酒にのみ娯樂を得んとする樣になるのは同情に耐えない。ニューヨークには一萬千個の酒店ありて細民等が酒の爲めに費す金は實に二億圓である。假に此の多額を東京郡部二百萬戸の中十五萬戸に分配すれば、一戸に就き一千三百圓餘になる、彼等の飲酒は、外の壓迫、家庭の不和不快から起るとは云へ、其弊害は又恐るべきものがある。これはニューヨーク市に限らず何處も同じ事である、ロンドンの人口を六百萬とすれば、百八十萬若くは二百萬即四人に一人が細民である。ニューヨークの細民も矢張りこんな割合であらう、公費の救助を受くるもの英全國中二百萬以上で其金額凡そ一億五千萬圓、其他救濟事業の數六千餘有り、英國では養老年金法と云ふものがあつて、これは六十歳に達して一定の職業無き者に政府から年金を支給する方法である、每週一志より五志を一人につき與ふ、その年金を受くる者百萬人、全金額一億圓に達する。

さて日本全國の狀態に就きては、精確なる調査がないが、東京市に就いて之を云へば、人口二百萬に對し二十萬の細民がある、彼等の收入は大正元年の調査に依れば、一日平均五十錢である。本所の横川町猿裏町等はその程度も極めてひどい所で、甚しきは二疊敷に數人も住み、此頃の樣に雨降續きの候には、幾日も斷食の有樣である。大人はこんな場合ジッと寢て時々水を呑んで辛棒が出來るとしても、頑是ない活潑盛りの子供等が如何にして耐え得る所であらう、哀れなる彼等の狀態を見て何故かゝる境遇に陷つたかを、今は研究して居る時でない。そんな事をして居つては遲い、貧しき者には食の道を與へるのが、今當然なすべき事である、しかし遺憾ながら日本には與ふる人も少なく、又與ふる方法も充分講ぜられて居らない。今新聞紙に掲載されし憐むべき

貧民の生活狀態の一例をあげやう。大阪に一家族あり哀れなる妻女は三人の小兒と祖母を託されて、夫に先立たれてしまつた、女は工女の働きをして五人の糊口を支へて居つたが、遂に到底生活も續きさうにもないのに悲觀し、成す處を知らず、三人の子を堀に投げ入れ自らも跡を追ふて悲慘な最期を遂げた我子を我手にて殺すに至る人生の悲慘事も此處に至りて盡せりと云ふべきであらう、かゝる淺墓な遂行に至るまで幾度か考へなほした事であらう、これのみならず帝國内に、こんな悲劇は幾何演ぜられて居るかわからぬ。しかし如何程人が注意と深き同情をもつて、一々これに注目して居るかは疑問である、日本人の情は美しいといふが、かゝる點に於ては或は日本人の心はにぶつて居るのではあるまいかと思はざるを得ない、救濟事業が充分に備はつて居ればかゝる慘事は行はれずに濟むのである。

徹々たるものながら我國には慈善事業の團體が六百五十又は六百六十程ある、免囚保護事業も團體中に加ふるならば一千程になる、其中佛敎僧侶の經營に係はるもの七十あり、基督敎信徒の經營に係はるもの是又七十内外に達する故、我國にキリスト敎徒十萬あるとせば救濟事業に從事する信徒が比較的多しと云はねばならぬ、英佛米國等の婦人にして是等の事業に從事する者が多きは、眞意より感謝する處である、さて幼兒保育事業とはDay nurseryの事にして日本のそれは英國のInfant school(貧民幼稚園)なるものを含む、この事業は七十年前佛國に初めて起つたもので、佛米國に最も盛大である、經營の目的は(1)母親をして勞働に便ならしむ、(2)幼兒の心身發達の爲め、Day unrsery は小兒を入院せしめて全く引き受けて養育するのではなく、母親は朝子供を托して夕方仕事の終ると共に、之を受取つて歸るのであるが、かくして如何に母親の勞働を自由ならしめて居る事であらう、理想的に云へば乳兒を收容せぬ方がよいが、母親も父親も共稼ぎを要する彼等にとつては致し方もない。パリー市には百のDay

nurseryがある日本には四十個所ありその中東京には七八個大阪には十四五ある、東京にては二葉幼稚園及櫻楓會託兒所が代表的のものである、後者は女子大學の卒業生の經營に係り、前者は野口幽香氏の經營で、三百名餘の收容兒があり、麴町より四谷の鮫ヶ橋に移つて以來、鮫ヶ橋の學齡以下の兒童を悉く此處に收容せんと非常なる努力をして居られる。

神戶で最も古いのは戰役記念保育金と稱するものにして、これも幹部は悉く婦人より成つて居る。仁川港にて露西亞との戰端が開かれたのは丁度明治三十七年二月であつた。出征軍人の幼兒を收容目的とせし故、この名を附したものである、この時建てし六個所の保育院中一は生活の特殊部落に置かれた、こゝでは母の會といふものを開き、收容兒の母親を招く事に成つて居つた、特殊部落と云へば今でも穢多町にて近寄る事さへ汚らしとせられて居るのに、地方では巾の利く知事の夫人をはじめ、其他上流の婦人方が卒先して、自ら部落に至り子供等を勞はり母親等と共に茶を飲み、親しく交はるのを見るにつけ實に美はしく感ぜられた。

戰爭後父親等は我子が健康に、しかも前よりは餘程禮儀も正しくなつて居るのを見て喜びも一方ならず、皆保育所に禮を述べに來た、のみならず自分の子供を眞心より愛して吳るゝ保姆等の優しい勸告によりて如何なる人に意見されても、止める事の出來なかつた飮酒の癖も直つたといふ美談もある。又怠惰なるものが勤勉に成つた例もある。殊に二葉幼稚園設立以來鮫ヶ橋の氣風が一變したといはれてゐる、是れを見ても保育事業たる小供を救ふと同時に家庭を救ひ得るといふても過言ではない。即ち子供を通じて貧民窟を改造し得るのである。先きに話せし三人の母がもし近所にかゝる事業があつたなら、あんな悲慘な事は行はれなかつた事であらう。終りに今回の暴風雨に就いて細民救濟狀態に一言せんに東京には東京慈善協會がある、被害地を實地に調べて見た所、約八ヶ所の保育所が開設され開かれた其

日よりいづれも百七十人の收容あり、滿員の狀を呈してその勇ましき活動振りを見て喜ばしく感じた。要するに貧富の懸隔は日本でも外國でも、甚しい貧民窟の自暴自棄に亂れた風紀を淸める上から云ふても、幼兒保育事業は大切な、同時に有効なものである、而してこれが婦人の力を待つ事大いなるものなるが故に、切に婦人方の奮起を希望する次第である。(女子英學塾青年會講演會にて)(在文責記者)

キリストの御降誕

松岡鎮枝

クリスマスを迎へるにつけ、私は若しクリスト此世になかりせば現在の思想は確に違ふであらうと思ひます。或點迄は世界の偉人によつて教訓される事でありませうが、天の神を父として吾々が子となる事の出來るのは基督教以前には教へられて居らぬ樣に存じます。考へれば考へる程、基督の御誕生は福音の樣に感ぜられて感謝に堪えざる次第で御座います。

私は十四年前子供を失ひまして非常に落膽しあの無邪氣な可愛らしい者をたゞ獨り離してやる事が如何にもあはれで、出來る事なら自分も一緒について行つてやり度樣に思ひ、非常に辛く思つて居りました時、常々私の尊敬して居りました二宮牧師がおいで下され、吾々を子となし給ふ神の御慈愛を御親切にお教へ下さいましたので、もし吾々を子となし給ふ神があるならば、この不完全な母の側に置いて育てるよりも、天の御父にお任せする事はどれ程本人の爲に幸福であるかしれない、私は喜んでこの子供

をお渡ししなければならぬと感じ、それから信仰の道に這入りましたもの丶神の子になつたと云ふ意識もなく、たゞ一つの道徳の教訓の樣に思つて、或時は事毎に感謝する事の出來る事を實感致しました、又或時は自分の樣な徳のない恩惠を受けるに相應しくない者が、不相應の恩惠を受ける事が勿体ない樣に思ひ、それにつけては感謝は致して居りましても徳行の如何にも足らぬ事、責任を感じつゝ果す事の出來ない苦痛に「常に喜ぶべし」との聖句を味ふ事は出來ませんでした、それは自分の境遇が惡いのではあるまいか、もし傳道者か農民の生活であつたらもつと自由なゆつたりした信仰を持つ事が出來はしまいか、自分の魂は僕の魂の樣で神の子と云ふ自覺のない事を苦しく思ひ乍ら、それを苦しみぬくと云ふ所迄行かないのでありました。例へば物を人に與へる場合、僕に與へた時には僅かの物でも非常に感謝の意を表して之を受けますが、親が子に物を與へた場合には僕ほどの感謝の意は表しませんが、しかも親を愛すの情は僕の比でないと云ふ事と思ひますと、どうしても私共が神の子であると云ふ自覺をもち、子が親を愛する樣な少しも無理のない自由な愛を以て神を愛し、アバ父よと呼ぶ氣分になり度と苦しんで居りました處が、長男が病に罹りまして大した重い病氣ではありませんでしたが、それについて深く考へさせられたのであります。その時私は子と神は愛であると云ふ事を直覺致しました。平生から自分の犯した罪の責任を負ふのは當然の事と云ふ感じを持て居りました、私は矢張子供の病氣につきましても何か親たちに責任がある樣に感じました其時疑もなく神は愛なり如何に私達愚かでも不徳でも惡まれる筈がない、さればこの病氣は子供の爲にも親の爲にも愛である、神は愛の神であるから吾々の罪を罰し給ふのではなくして、前途をよりよくする爲に神の愛の結果である事を感じました、そして全部を神にお任せする事が出來ると思はれましたそれ以來非常に自由な心持になり初めて神の子たる

の意識に入つた感じ愈々味はれました。これ迄自分の苦しんで居つた苦しみの如何にも價値ないものであると云ふ事を知りました。自分の苦しんで居るのは物質か或は周圍の人々を比較しての事で、物質などの事はあればあるでよい、なければ無くても事が濟ので人間は物質以上に置かれてあるものであると云ふ事を感じ非常に自由になり、物質を重く見ません結果自然と慾も制する事も出來ると感じます、人が骨董か樂しんだり、又自分が芝居などに誘はれます場合など何時も心で苦しんだり、責めたりして居りましたが其等に對しましても見方が違つて參りました。極平凡の様ですが其處に「常に喜ぶべし」と云ふ事が味はれる氣が致します、私は今愚なる娘として神の愛を受けて居ります事を信じて居ります。

又私は赤兒を見ると基督も同じ無心な赤兒でおいでになつたのであるから、この赤兒もどれだけ大なる働きが出來るかと考へますと、敬愛の念を禁ずる事が出來ません、この槽の中の御誕生を思ふと貧しき境遇にある子供にも敬意を拂ふ心持となります、又貧しき境遇におかれてある子供達にもどの位勵みになる事かと存じます、私はクリスマスをお迎へするにつけ吾々神の子となるのはクリスト以後の者に與へられた特權だと存じます。

和歌

草刈女を歌へる

金子薫園

うつむきて草刈る女の半面に草がうつるか青ざめて見ゆ

朝つゆの殘れる草を刈りつゝも折々空を仰ぎてゐるかな

そのやは手、幾日かゝらば原の草刈りをはらむぞ青空遠し

ひとところなほ刈り居れる草刈り女何を思ふぞ鎌の手は止む

草刈り女の小肩をよぎり赤蜻蛉つながり飛べる晝ふかみかも

月の影（十五首）

海上龍子

新月

夕こりの雲はうすれし西山の松にほのめく三日月の影

ほのかにもみ空に見ゆるふじの嶺の影より薄き三日の夜の月

天夜月

夕がらすねぐらもとむる片岡の梢はなれて月ぞ出にけり

十五夜月

人皆にめではやさて望の夜の月の心もみちたらひけむ

十六夜

待わぶる我をなぶりて山の端の雲にいざよふ月の影かな

十七日夜（たちまち）

色つきし高嶺の雲を心あてに我立まては月は出にけり

十八夜（ゐまち）

くれしよりいまか〱とたち出て月待霄の長くもあるかな

十九夜（ふしまち）

まちわびてふすまもあらず閨の戸の隙間てらして月傾ける

二十日夜

ゐまち過ぎふしまち過て月影のはつかになれどあかれやはする

連夜見月

立つゐつ居待立待まちながら夜を重ねても月を見しかな

後の十三夜月

みちぬればかくる望にもいやましてみたぬ今宵の月ぞめでたき

山家月

秋風に栗もこぼろゝ山家のうき霧晴て月ぞさやけき

川月

さひ鮎のそれとも見えて桂川玉藻にうかぶ三日月のかげ

山月

ふく風に浮雲晴し秋の夜の月に見えゆく峰の松原

月前興

月のさす松の木かげの片をり戸今霄夜よしと人もこそとへ

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑

◎歐米有名賣藥各種

◎舶來化粧品各種

◎醫療器械各種

◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

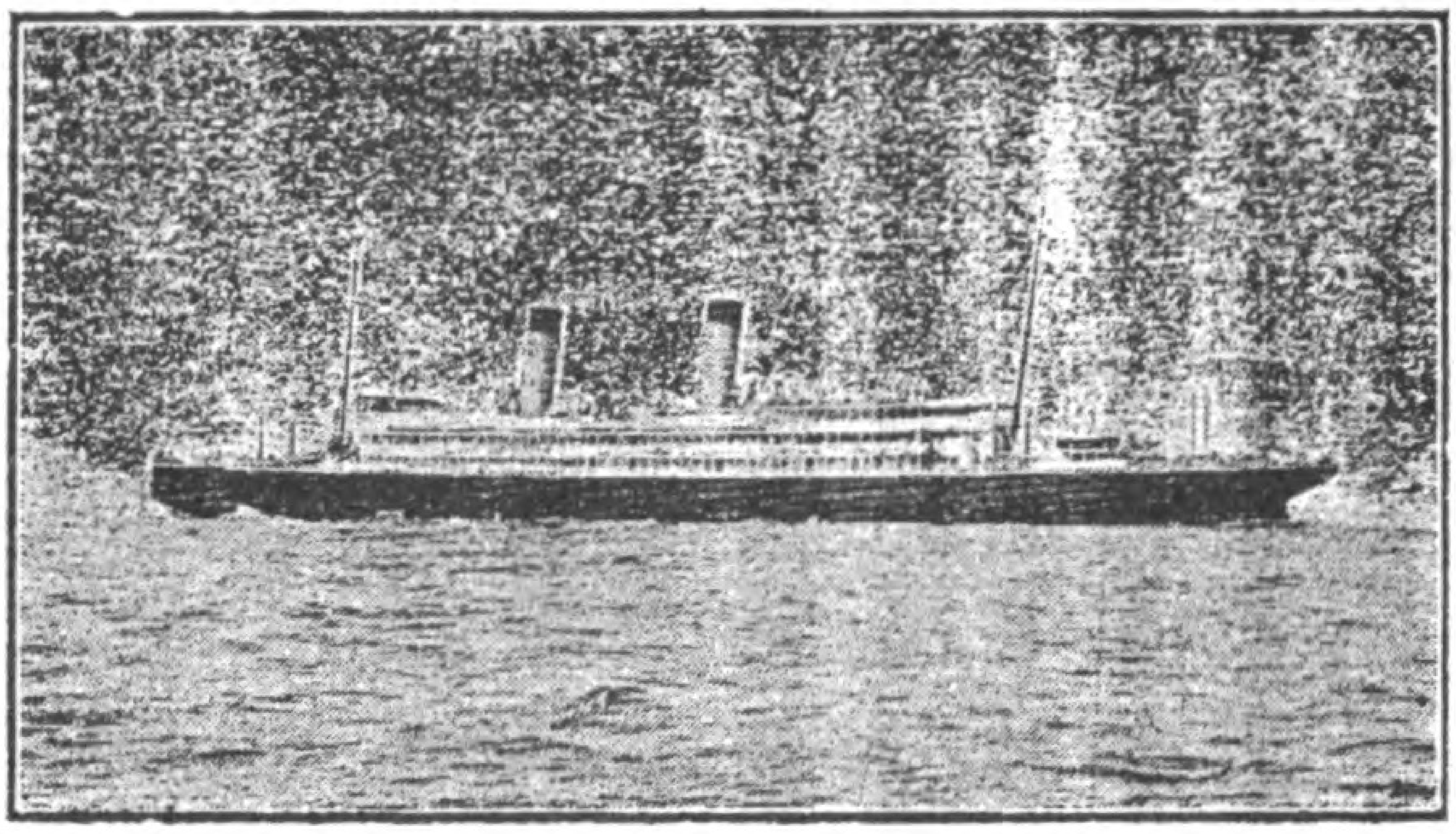
（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

御用の節は『女子青年界』の廣告を見たと御申添下さい

東洋汽船株式會社



本社 東京市日本橋區通り一丁目（電話四〇八〇、四〇八一番 本局四〇八二）

營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一番 四四〇二、四四〇三）

出張所
神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング
上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング
マニラ チヤコビルヂング
桑港、マーケット街六二五

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、五〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

九州行（續き）

河井道子

十月廿一日日曜日は前日の如き晴天にて心も爽々し。午前十時散會に行かんとて鐸木夫人の迎を待居りしも、久留米なる石原龍子氏へ打電すべく郵便局に出掛けぬ。商店の一小僧も此處に居て何やら困り居る樣子、聞けば上海に電報せんには英字ならでは扱はざると係員に斷られ、途方にくれ居るとの事なれば其手傳を爲し居るうちに鐸木夫人が局まで迎に來られ大急ぎにて、荒木牧師の教會に行く。同氏は先年伊勢山田の教會を牧されし事あればお互に知己の心地せるもうれしかりし。午後一時青年會館にて「女子青年會とは何ぞや」との題の下に講話す。島田知事令夫人令孃等も出席ありたり、久々にて元良北見氏奈良高師出身なる奈須氏、昨今歸朝されし高森女史及活水女學校の先生生徒方の出席を見たり。

そも長崎は宗教上特徴ある歷史を有する市なるは誰しも知る所にして、佛教の盛なるはカトリック派撲滅の目的を以て政府が佛教を奬勵せしに依る、されば寺院の如き無數にして家毎に所屬佛院の名を貼出せるなど他に見ざる所なり。宗教自由の與へられし今日舊教の勢力又旺勢にして其寺院の如きは日本全國に無雙と稱せらるゝ程の廣大なるものなりとぞ。其の中間に於ける新教徒の立場は非常に困難にして、各派共に未だ充分なる發展を爲し得ざる場合にしあれば、此處に女子青年會支部を直ちに創立する機運には未だ至らざるは當然の事なり、然し必ずや近き將來に於て市の女子青年會などの市民に奉仕する事多き場合の來たるは疑はざる所なり。其夜在熊本宣教師ミス、プール と共に移民問題につき協議

し一日を熊本市に送る事を約す。
廿二日、午前は訪問に忙はしく、午後より矯風會主催のもとに講話す、永田キチ子氏(舊高杉氏)に會ひ英學塾時代を語り阪本花代氏の近狀を思ひ、滿洲なる佐藤久子氏等の諸友人のなつかしき噂に、時の移るも忘れ居たり、六時に有志者の厚意にて靑年會館の食堂に於き寄鍋の饗應を受く、此寄鍋は長崎の特長なりと、まづ大鍋に昆布だしを作り其沸騰せし中に松茸、人參、葱、靑味、鳥、餅、饂飩、蒲鉾、麩、蒟蒻等を入れ醬油、砂糖にて適宜に味を付け碗盛として出す、餘りの馳走にて幾碗かへせしや數知れず、誰の顏色にも夏の如き陽氣の見え汗拭かん許なりしも饗應の厚き心の露出なり。
廿三日、ツルーマン夫人に伴はれ訪問す、午後一時奧、鐸木兩夫人に伴はれ高等女學校に行き講話す當校在學生五百名以上にして他に公立高等女學校なきを以て常に滿員の姿なり。校長は至極寛大溫順の士にして廣く知識を世界に求めて、生徒に之を與へんと努力さるゝとの世評あり、引續き女子師範に至り此處にて同じく講話をなす、この建築は外見壯麗なるに拘らず內部は白蟻の爲腐蝕し講堂の如きは危險なりと聞けり、一般に長崎市には白蟻繁殖し官衙學校或は普通の家屋等に多少の白蟻蟄居し居るを以て、當局者はその排除に非常に苦心中なり。歸途有名なる諏訪神社の境內に案內されたり、長崎諏訪神社とは名高きものにして每年十月上旬祭典を行ひ、全市狂せんばかりの大仕掛なる由、其祭典の責任は輪番六町內づゝにて競爭的踊舞臺を出し、之が爲に當番の町民は莫大なる負債を來たすも敢へて厭はざる習慣あり、其內には娘を踊に出さんが爲借金をし漸く七年もかゝりて、其負債を返却する頃には又當番廻り來り借金をなす如き惡風益々盛なり。そも此祭典の由來を尋ぬるに切支丹宗門禁止迫害の記念祝賀の意を以て神社の隆盛を計りしに基づくものなり今や其最初の意味は全く忘却されしのみならず、知事邸內に此踊を入れ、上官の招待にて外國人等之を

見物するを一つの行事に爲し居れり、祭日三日間は其當番に當れる六町内の各戶邸園を開放し公衆の縦覧に供す、之も昔日切支丹宗禁止の際、マリヤの像其他の同宗派に關する物品搜索を行ひし時の習慣より出でしものなりとぞ歸宅後協議會を開く、縣廳側代表者三名、牧師、敎師、青年會幹事並に矯風會々員其他婦人等を合せ二十數名の者相會し、如何にせば渡航者に外國の知識を普及し彼等を援助し得べきやを協議したり、遂に矯風會より三名、青年會賛助員より三四名を以て幹部となし之に六七名の評議員を加へて委員を組織する事に決議す。一同深き興感を懷き如何にしても長崎市繁榮の爲、移民の便宜の爲引ては日米信善の爲に、是非とも此事業を官民と共力にて起さん事の希望を述べ散會す。元より基督敎徒は渡航同胞の靈性救護の忽がせにすべからざる事を留意し居りしを以て、今後傳道の道をも彼等の間に開始し得ん事を希望する處なり。

廿四日、奥、鐸木、ツルーマン夫人等共に計り、是非とも專務にて此事業に當るべき適任者を得ん事を協議し、豫算五百圓近き將來に於て募集せん事を協議す、婦人方の熱心又其希望計畫等遙かに、會見せし男子の諸先生方以上なるを知り感謝に堪えず、この三人は最初よりして自ら其衝に當り、縣廳、旅館に屢々往來して苦心せし經驗を有せられたれば、漠然たる理想的の相談を避け常識を以て實際的なる計畫をたて、之を履行せらるゝは敬服する所なり。十一時半より講話の爲活水女學校に赴く、名譽校長ミス、ラッセルは八十才の高齢を以て尙赫灼壯者を凌ぐの勢力あり、同校は四十年の歷史を有せる事とて多くの卒業生を海外に出し、宗敎の學校の主なるものゝ一つとして世人の認むる所なり、彼の米國加洲牛島諸吾氏夫人及沙市豪商古田氏夫人、又中央委員の井上とも子女史の如き皆同校の出身なり、午後二時組合敎會婦人會に赴き又活水女學校に引返して九州幼稚園媬姆聯合會に一場の講話を爲す、會後奥鐸木兩夫人に伴はれ旅館三軒を訪ひ移民事業につき

旅館主人側の助力を乞ひたり。此日長崎の强雨は全港風景を一變する如き趣あり、晴雨共に異りたる景色を呈し我が短き滯在を慰む如き心地す。

廿五日、午前七時四十分の列車にて熊本に赴く。午後三時半着、直ちに英國貴婦人ミス、リデールの經營にかゝる回春病院を訪ぬ。この病院は市外にありて雨中田舍の泥路を疾走する約四十分にして達す建物は平家にして幾棟にも分れ患者は男女別とし東西の棟に分れて收容せらる、棟は大小樣々なれども一棟毎に八疊間を幾つとなく造り、一室に四人入るる定なり、門側の藥局に隣して禮拜室の設あり朝夕此處に於て敎師の許に禮拜をなし臨時集會等をも開きて患者の慰藉となす、庭園は何れも行届き、菊、コスモスなど此處其處と咲き亂れ、無花果の如き空を凌ぐ如き喬木にして、其周圍の生垣等の雅致何れも田園生活の趣味深し、構内の中央にある通路を友人の並木路と稱す、こは友人の寄附の木を兩側に植えしを以てなり。日本人患者の他に布哇人夫婦、米國人一人とを別棟に收容す、此處其處に芝生あり遊戲所ありテニスコートあり、後は繁みの丘、前は田甫にして閑靜此上なし、然りながら秋の雨中は何となく淋しき思せられたり、其附近は皆細川侯の所有とかにて近年病院の隣の地所數千坪同家より寄附ありしを以て、將來は禮拜堂墓地等を此處に設くる豫定なりと聞けり、外國婦人が一手にて二十年の昔斯る博愛事業を興したりとの其精神はもとより感謝すべく尊敬すべき事なれども、彼をして斯る犧牲を喜んでせしめたる其源は基督の愛に依るなるを知り慈善事業に基督なきものは佛造つて魂入れざる如きものなるを今更の如く感じつゝ病院より半里も離れたる所に住せらるゝリデール女史を訪ぬ。それよりメソデスト派宣敎師ミス、プールの宅にて午後七時より移民につき協議會を開く、來會されしは僅かに女子七名、男子三人に過ぎざれども、互に胸襟を開いて善事を爲すの喜びを感じたり。

廿六日、午前八時熊本女學校に講話の爲招かる、

同校は前に海老名彈正先生などの創立せられしものとかにて今は何派にも屬さず獨立したる基督敎主義の女學校なり、校長醫學士福田先生はスコットランドの有名なるシムソン博士の薫陶を受けられ、明治四十年東京に於て開催せられし萬國基督敎學生大會に列席せられし博士と共に、日本各所に傳道されし方なり、見るからに溫厚篤實なる基督者紳士にして、本職なる醫業を第二とし、先づ熊本女學校に全身全力を注ぎ子女の敎養に勉めらるゝ由。同校に矢島揖子女史の令孃竹崎たつ氏敎鞭を執らる、同氏は以前札幌北星女學校に奉職されしを以て尙更に今回の會見うれしく何時迄も止まり度心地せしも、時間なきが爲に縣廳に赴き知事、保安課長に面會し、女子青年會の事業、米國布哇に於ける女子青年會のこの問題に對する活動等を陳述し、長崎の新計畫をも解き熊本縣下に斯る事業の必要の有無を尋ね、渡米者の數を調べなどして尙二三の訪問をなし、午後二時よりメソヂスト敎會にて同問題につき講話會を開く、札幌北星女學校出身者內藤氏にも會ひたれど話す暇もなく、急ぎ四時半の汽車にて福岡市に赴き夜八時着、福岡英和女學校の諸先生及び青年會代表者の歡迎を受け同校に投ず。

廿七日、福岡英和女學校は三十餘年の歷史を有し多くの困難を經て今日隆盛の吉兆を有せる有望なる學校なり、九州全國には同校と活水女學校の他にミッションスクールなければ此校を擴張して、內外共に整頓せしめ大に九州に貢獻せんとの大計畫中なり既に市外に敷地一萬坪以上を求め二年の後には、同所に十幾棟の煉瓦造りの大建築物を落成せしむる由にて、今や其資金募集中なり。校長ミスリーはマントホリオクの出身にして未だ年若き敎育者なれども其經驗に於ては老練なり、げに福岡は九州の學府にして將來長崎を凌ぐの貿易港となさんと市民の機運なれば、此地に壯大なる宗敎的女學校の必要は誰しも認むる所なり、ミスリーは最早立派なる日本人の敎師を集め、將來益々良敎師の撰擇につとめらるゝ

事なれば同校の隆盛は期して知る可きなり。
此處に女子青年會支部を本年設立されしは全青年會發展の一歩にて、若も九州地に於ける第一の支部なれば、會員諸姉は此英和女學校女子青年會の爲に深き喜びと祈とを以て奬勵あらん事を乞ふ。

廿八日、午前午後學校、教會にて講話し、夜は裁縫女學校に赴く、同校々長の伴夫人は横濱共立女學校の舊き出身なり、校園内の校舍は生徒の爲に此上なき良地なりと思ひ雨中歸宅す。

廿九日、午前縣廳に行き知事及保安課長に會ひ、熊本にて訴へし如き事を語り彼等の賛助を得將來の援助を依頼して歸る、午後公園に運動の爲先生方に伴なはれたり、福岡博多の斯迄美はしき土地なりとは夢にだも知らざる事を告白して人々に笑はる、其夜々行にて廣島に赴く、門司下關間の海峽は波高くして危險なりし。

三十日、午前七時廣島着、直ちに廣島女學校に行く十一月上旬同校三十年記念會擧行準備にて、職員生徒大多忙中なり、既に三回目の訪問なれば自然と親しき心地し遠慮もなく語るを得てうれしかりし、校長と共に知事市長其他數名を訪問す、上海日本基督教會牧師大谷虞夫人まき子氏は小さき令息教育の爲又御自身の修養の爲として同校の師範科即媬姆傳習所にて勉學中なりしは敬服に堪えず、此夜大阪に向つて出立す。

卅一日、午前六時頃神戸附近車中にて手提を盜まれしは大失敗なりし。全く自身の不注意なるを知り今後のよき教訓めなりき。大切なる書類、又今回九州にて知己となりし方々の宿所姓名全部を失ひし事とて不便此上なし、大阪に著くや直ちに廣岡淺子夫人のもとに馳せ、第一に朝飯を乞ひ一文もなき由を語りて歸京の費用を借用す、二三時間も親しき種々の話に時をうつし益々同女史の靈的發展を歎賞し、神の靈彼が上にあるを知り己が信仰の遲々たるを悟り、此處によき靈的の糧を得てわかる、それよりミスエマソン、ミスハード氏を突然訪問して彼等を驚

かす、この兩氏は青年會幹事として、今回大阪支部創立の爲派遣されし者なり、大阪にては借家少く家を求むる爲一月を費し漸く荷物を解きしのみなりき。場所は大阪東區空堀町二丁目四十九番地にてウキルミナ女學校清水谷高等女學校に接近し庭園誠に廣く日光の當りもよく園遊會など開くには此上なき場所なり、且又二三町にして電車の便あり、只に願ふ所は家主が成可く永く此家を貸し與へくれる事なり、今より彼の庭に吾等の友人親しき知己等の互に集まり親睦する樣など想像するさへうれしき思ひす、翌日十一月一日十時半新橋に下車し、心身健やかに歸宅し得しを感謝したり。

活舞臺

加奈陀　阪本花代

九月卅日。加奈陀に於ける最後の一年は各方面に有益であれかしと努力致し居る次第、永い夏休には隨分色々の經驗を致し田舍者の吾々の旅には大谷樣も閉口遊ばせし事、自分の過去を省みて平和に滿ちた瀨戶內海の沿岸の生活から、廣い風俗習慣の違ふこの地の生活、私は深い〳〵過去に對しては只感謝に滿たされた許りです。

マスコカの修養會では當國の女子青年會が如何に有勢なるか各方面の人々を網維して居るので、田舍者の私は是にも少々驚愕、學生部では祈禱に對して聖書研究に對して色々議論も出ましたが、米國の出方は實に活潑で相當の見識をもち、自己の意見もどしどし發表して進む所は、學び度いものと思ひました、マスコカを去る前に一人の學生の方が日本の歌を書いてくれとの仰せ、どうせ歌にもならず只三十一文字を並べたと云ふ處で、

マスコカに寄りつどひにし乙女等は
神を愛でつゝ世をば渡らむ

天地の御神をほめよ乙女等よ
いづこの當にわかれ行くとも

この二首に我が思を述べ、憶々もつと和歌なども日本に居る時勉强して置けばよかつたにと、不勉强なりし過去を悔み、歸朝の節は後ればせながら各方面に勉强したいと感じました。働きながら各方面に生涯勉强する事は人生の最大な幸福と昨今切に感じて居ります、今迄習つた事が何一つ無益なものはありません。有職女子と高等女學校生徒等の爲に設置された二週間の天幕生活も實に面白く、若いながら働いて暮す娘さん方と豐かな生活、親から暖い愛を注がれ春の野に舞ふ蝶の樣な呑氣な女學生の方々と二つを對照して面白く、日本の女子青年會でも修養會の以外に斯る事業もする樣にならば心身の修養に益ある事と存じました、先生第一に申上ぐ可き感謝お喜びが中途になりましたが、神戸、仙臺の修養會はお盛なりし由何よりの御事とお喜び申上げます、私共の心許りの葉書に神戸女學院の米澤樣の委しい御丁寧なる御禮狀、私は何とも云へない有難さをもつて拜見致しました、近い内この御親切な御手紙に對して御返事を差上げ度と思ふて居ります、本年の夏色々の經驗の一つなる天幕生活の後は大谷樣と御一緒に家庭訪問を致し、半ケ月餘も大學總長の御宅に逗留致し、高尚な學者の家庭、快活な同夫人、可愛らしい坊ちやん、美しい景色を朝夕見せて頂きながら樂しく〱過しました、殊に私共が歸る時は總長御自身と御令息とお二人で停車場迄送つて下さり、モーターボートが埠頭に着くと車に私共の荷物を載せお二人で汽車迄お運び下され、二人共只もう恐縮千萬、とても日本帝大總長はこんな事はなすつて下さらないでせうネー、どうしませう、どうしませうの連發、この時の樣子、この時の感じは今猶私の心に生きて居ります、其後はミスカフマンの弟君の御宅に逗留致し、我が家に歸つた氣になつて呑氣に樂しく過ごし、市役兒童遊戯所、公園内オプンエヤスクール（戸外教授學校）の研究、私は餘り自分が元來丈夫でなかつた爲後者に興味をもち、弱い體質の子供に對してこの種の學校が欲しいものと思ひ、

（冬は公園内でなくどこか他に引き移るよし）必ず冬の此種の學校も見度いものと望んで居ります。

今夏廣田の叔父にあひ元氣付けられ、歸り度いと思ふ心よりももつと〳〵勉强し度いといふ刺戟を與へくれました、セント、キャザリンスの友人は恐らくカナダに於ける私の親しい友、質素な美しい信仰にみちたこの家庭ではいつも慰められ美しい敎訓を與へられるのです、友の母は傳道會長、友の三人の弟は當大學出身、第一の弟はMAの稱號を當大學でとり今はシカゴ大學でこれ以上の學位の爲に勉强中次の弟のフレッドは戰地にあり、此の弟はヴイクトリヤ、カレーヂから第一に從軍し昨年一月八日僅に二十才で同大學の出身者中第一に戰死し、何時も一家の人々の思出での種、この弟の名はラスで小さい時から銳敏で、にこやかな顏をして居るのでお母さん此子をスヰートネスと呼び風采も美しかつたよし學校の成績もよく、澤山金のメダルも貰ひ、オンタリオ洲で成績の最優等生の受けるプリンス、オブ、ウオルスの奬學金を得し秀才で、秀才なりしだけに各方面に人の後には行かず、國家に對する義務といふ事を感ずると直ちに軍籍に身を投じ戰地に行きし由、悲慘なる戰線に立ちても、何等の苦痛不平もこぼさず、家への便りには何時も快活な事ばかり書き、今遺品となつて殘り居る手紙は普通軍人の手紙と違ひ居る由、昨今この手紙を集あられ近い內一冊の書にする由、此青年の戰死後戰友より家族に書き送りし手紙の端を開き私は何とも云へぬ感に打たれ暗涙にむせびました、カナダでも英國でも幾多の秀才が戰場で國家の爲め斃れるは實に氣の毒千萬、私はこの勇者の話を聞いて自分も人生の戰場にたち、基督い信仰をもち進み度いと深い敎訓を受け、何事に當つても馬鹿におじける事がない樣に眞に勇者になり度い、海外の學生生活は私が日本で想像したよりは違ふ所もあり樂しみもあれば苦しみもあり、然し凡てを喜びの內に送り度いとつとめて居ります。

永い休暇中に勉強したいと思ひながらも、思ふだけの事も出來ず化學を勉強せしのみ、然し諸所を訪ひ色んな人にあひ右申上た樣な生きた教訓も（永久平和に移りし人なれど）受けました。英學塾時代に先生から伺つて居りました、友にも色々ある、着物の好きな人は其種の方に、芝居好きは芝居連れ、常に神を求むる人は信仰の友と交れとのお言葉は旅をするにつけ、又多くの人に接するにつけ味はれ、廣い世の中で眞に世界的四海同胞主義の美しい精神をもつて私共に親切にしてくれる人は、同じ神を愛する熱心な信者の方です、私は眞にこの地に來て自分は只神と共に歩まねばならぬ事常に祈らねばならぬ事を切に感じて居ります、友人と祈禱について話した時に、私は赤坊の樣だが聞かるゝ迄は同じ祈りを何時も繰返へすと申せし次第、嘸皆樣も私共の事を祈つて下さる事と私は朝夕日本の女子青年會の爲めに祈つて居ります、今年の修養會で蒔かれし種子が益々元氣よく生ひ立ちて、この會が神の爲人の爲に榮え行く樣祈つて居ります、彼れ此れと基督教に入つて批評する人もありませうが、西洋文明國で基督教を除いたら私の敬服する點はなくなる事、教會の事業など立派な働きも、多く信仰傳道の精神燃ゆる處に眞の平和と愛が實現される事と思ひます。

女子祈禱集會の記

聖日の午後は朗らかに晴れて居りました。初冬のうすら寒さも此處にばかりは忍び入る事が出來ないのでせうか、堂内は常春の樂園の樣に和かな溫い光に充ちて居りました。午後の日は左手の高い破璃戸越しにまばゆく輝いて、その青く澄んだガラスに浮んだ木の枝が音もなくゆら〳〵と動いて居りました。

青山女學院、女子學院、東洋英和、和洋、女子職業などの諸校から聖淨な胸を抱いて集ひ來る姉妹は刻々その數を加へて、二時少し前にはもう空席も殘

り少なになつて居りました。期待に輝く謹しみ深い姉妹方の瞳はいふに云はれぬ緊張を見せて何物かを得ずんばやまない強い要求が堂内に充ちて居りました。

背後のドアが靜かに開くと、先づ沈默を破つたのは植村先生の深い御嘆息、それにつゞいて男性的な靴音が私共の視線を一樣に動かしました。

外村先生の後から講壇にお上りになつた渡邊先生の「讃美歌廿九番—廿九番！」といふはつきりしたお聲に會は愈々初まりました。つゞいて百廿二番、加藤先生の聖書朗讀 路可傳十五章一—十二、渡邊先生のお祈、讃美歌五十六番。それから「基督の同情と愛」の題下に外村先生は例の落着いた調子で口をお開きになりました。說き來り說き去るにつれ、熱と靈感にうちふるふ先生の嚴肅なお顏には、私共を動かさねばやまぬ强さがひらめいて、今此處に原始時代の熱烈な信仰復興が起るのではないかと思ふ樣でございました。

讃美歌百六十二番をはさんですぐ入れ代りに壇上にお立ちになつた植村先生は、「イエスを信ずるの理由」をお說きになりました。愛に充ちた師が徒弟を教へる樣な、又威嚴ある祖父が孫をさとす樣な、親しみのある態度で、手近な實際問題を摑んではそれから深遠な問題に進み入り、遂に救の大眞理に說き及ぶところ、御老練さをつく〴〵感ぜしめられました。ひとつ〳〵と斷片的に先生の唇をもれるお言葉が肺腑をつく樣に銳く胸をさして、その言葉と言葉との間の長い沈默の中に私共は深く〳〵魂の奧底に沈潛して、其處に生々しい傷跡を見出す樣な切なさを覺えるのでした。雜事雜念に掘りかへされがちな「耕されざる」私共の心の畑は、過去一週間の祈禱週の間に幾分かならされて居たのでせうか、今此聖日に尊い眞理を耳にした時には、時も所も人も一切のものを忘れて只神を思ひ自己を恥ぢ、いひしれぬ靈感にわが胸の强くうちふるふのを感じました。そしてよし今後いかに雨風にさらされても、各自の中に

此時描かれた種子が安全に生ひ立つ樣に、いつかはよい實を結ぶ樣にと祈らずには居られませんでした。

合唱の中に紙片が次から次へと廻されました。青年會に關係していらつしやる信者の方々が大部分を占めて居た爲、署名して聖書の組に入らうと決心なすつた方は十九人に過ぎませんでしたが、神の御前に再び「我」を名のり出でて新しい第一歩を踏み出す決心をなさらなかつた方は一人もなかつたでございませう。

落ついた植村先生の祈禱會は閉されました。思にうなだれながら靜に屋外に足を運ぶと、夕風がひいやりと上氣した頰を撫でるのでした。金色の夕日まばゆく、澄み切つた青空が夢の樣にのぞきかゝつて居りました。

哀れなる牧羊者

ヘンリー バンダイク譯

哀れな牧羊者が谷を遙か下に見て、半ば忘れられた昔の戰鬪の傷の痕の樣に、デコボコした岩の山の脊を歩いて居りました、周圍は不安な氣味の惡い寂寥で夜の無數の發光は變に寒く見えました。

彼の後には雨風にさらされて鬱々とした羊の群が頭を低く垂れて從いて居りました。黑く長い耳を垂れた野羊は岩の上に飛び上つてガツ〳〵と小さい樫の柔かい枝や葉をさいたり、かぢつたり、又繁つて居る枝の間をくぐつたり飛びついたりして居りました、それは丁度みじめな見棄てられた仲間と活潑な小さい黑い椀白者の一隊とが哀れな牧羊者について來る樣でした。

牧羊者は彼等には全く顧みないで、俯向いて歩いて居りますと後の方にバタ〳〵と足音や、息の喘

ぎや、木の葉のガサ〳〵云ふ音を聞きましたので、彼は牧羊者の笛を出して吹きました、その音は、暗をついて陰欝に響きました。彼は羊と野羊が爭ひ合つたり飛んだりはねたりして、彼の近くに來るのを待つて笛をしまつて、又俯向いて進んで行きました。山おろしのヒュー〳〵云ふ風は茨で破れ旅でよごれた彼の青い長い外套の襤褸をひら〳〵とさせました、絹の下着はすりきれ、腰の帶は金物も寶石もなくなつて、縮れた髮の毛はリボンの帽子の下に縺れ下り、柔かな皮の靴は破れ、日に焦けた手の指には昔あつた指輪のあとが白く殘つて居りました、彼は長い棒や牧羊者の持つ樣な、飾釘の付いた重い鞭も持たず、たゞ細いすり切れた彫のある杉の杖、(而し昔は握る所に立派な金具が付いて居つたらしい)を持つばかりでした。彼はこんな淋しい處でこんな賤しい稼業をして居る者には見馴れぬ姿で、曾ては宮庭に咲きほこつた花が無慘の風で荒野に吹きつけられて來た樣に見えました、而し彼はもう誰にもかまはれない樣になりまして。彼の顔は上衣のすり切れて居る樣に荒れて居りました。彼は光々とした月の光に照らされて外套を固くまとひ、又俯向勝ちにあるきだしました。誰一人彼が何處へ行くか知つて居る者もなければ、尋ねる者もありませんでした、牧羊者は一二時間野原を歩いて荒作りの塔の側の石の羊の圍のある處に來ました、其圍には羊が一ばい居り、塔の下には焚火が燃えて居て、其圍りに四人の牧羊者が厚い毛の外套に包まつて屈んで居ました見知らぬ人が近寄つて來たので、彼等の一人は節のある棍棒を持つて立ち上りました、何をするでもなく牧羊者の後に羊の從いて居るのを見て、お互に顔を見合せて、

「かれは私等の一人で羊の番人だ如何してあんな着物で此處へ來たのだらう、あれは御殿で着て居る物だらう」

「ナアニ、あれは御殿から追ひ出される時に着るものだ。あの襤褸を見なさい。彼は羊盜賊かも知れ

ない」と立つて居た者が云ひました、
「彼に挨拶しなさい、此方は四人彼方は一人だ、あんな襤褸の旅人なんか恐れるに當らない、どんどん話しな、それが神様のお思召だ」と一番年上の牧羊者が云ひますと。
「御機嫌よう、お前さんの御兩親もお仕合で」と一番若い牧羊者が云ひました。
「氣を大きくお持ちなさい。私は獨り者だがお前さん達の御家族が惠まれる樣に」と旅人は答へました。
「家なし者、仲間に捕られたか、神樣の罰か、どつちかだ」と年寄の牧羊者が云ふと旅人は、
「どつちにしても結局は同じことだ」と答へました。
「お前さんの言葉で見ると、ガリラヤから來たんだね、何處へ行くんだい、何を此處で搜して居るんだ」
「私は何處へも行くんぢやないが途中で寒くなつたから、この火の方に足を向けたんだ」
「お前さんが溫和しい人間なら、サア〳〵來て足を暖めなさい、火は御馳走だ、あたつても減るものぢやないしさ、パンや鹽も欲しけりやあげるがね」
「あなたの御厚遇は有難い、處で羊は」
「羊は圍の南側に繫いで置けば、風も當てないし草も澤山食べられるさ」
それで彼等は火の側に皆坐つて、哀れな牧羊者はパンを食べました。
アミエルが襤褸の絹の着物で、消えかゝつて居る火の側で自分の物語をしだしましたのを、牧羊者達は暖かい外套にくるまつて、眞面目な顏をして不思議そうな目付をして坐つて聞いて居りました。

その二

私は家では次男で、兄は何につけても信用され、尊敬されて居りました、彼は忠實で家業には精を出したが又何でも思ふ通りになりました、私は毎日の仕事や叱言で樂しみも何もあつたものではありませんし、誰一人自分を愛してくれる人もありませんで

した。私の母は私が叱られると時々泣きました、定めし失望したのでせう。而し母には何でもより善くするだけの力はありませんでした。私は必要上養はれて居る駄馬の樣に感じ、面白からぬ生活を重い馬具の樣に嫌つて居りました。或る日、

私は父の處に行つて家督の分配を請願しました、父は私に分けてくれましたが、少しも貧しくはなりませんでした、それで自分は自由になりましたから目や口の保養に出掛けました。

私は若いし金を持つて居るので皆に大騷ぎされましたし私もそんな物は無盡藏であるかの如くに思つて費ひました。私は立派な着物を着て毎日贅澤に暮しました、食卓は御馳走だらけ、家にはたゞ金と私の若さを求めて來る嬉々とした客が群がつて居りました、この大した御馳走で心は空虛になり、亂れた宴會の後で醉ひつぶれて眠つてしまひました、その後は私は快樂よりも權力の方がよいと思つて、遊ぶにしても偉い人と一緒にすれば、その人に取りたてられ世の中に地位や權利を持つ事も出來るし、友達も得られる、それで私はヘロデに從ひました。

ヘロデは或目的の爲に私をよく用ひて下すつた、彼は私を宮殿に迎へられて、非常に寵愛して下ださり、私の金をお貸しする迄に親しい間柄となりました、このうろついた生活の間に私は非常に愛の缺乏を感じ何物をか得たいと、心中望んで居りました。

市の或る所で窓のしめ切つてある中に、若い奴隸の娘が踊つて居るのを見ました、その娘は十五才位の瘦せた、たをやかな子で風に吹かれた葦の樣に踊りましたが眼は死人の樣につかれ、白い體は傷だらけですし、躓づくと男の人々は笑ひました、倒れて泣いて居るのを女主人は打擲するのでした、私は金を拂つて彼女を家に連れて來ました。彼女の名はテーマーでした。彼女は私の歸つて來るのを喜びもしなければ、出て行くのを悲みもしませんでした。

さてヘロデは私の家に秘めてある寶物を知つて居るかしら、彼は市中に密使を出し又彼自良も假裝を

して夜さがし歩いて居らるゝに違ひない。或日のこと彼は私を迎によこされました、私を誰よりも信じ又愛して居ると云ふ事を表はす爲に私室へ通されました、私は封書を持ち密使をおびて、羅馬にあるシーザーの所に行かなければなりませんでした、其處でヘロデは私によい約束をされたので自分の家財全部をヘロデに預け彼の使に參りました。

私はシーザーの前に立ち、手紙を呈しますと、彼はそれを讀まれて笑はれました、彼は嘲笑つて横を向ひてしまはれました、私は何のお蔭も蒙らずに歸らなければなりませんでしたが、財布は空で何とも致方なく、自分の指輪や襟止を賣つてヨーロツパに行く商船に乘つて歸りました、私は王がエルザレムの宮殿には居られないで彼の友達と樂しく二三ケ月を送らるる爲に小樂園の山に行かれたと云ふ事を聞きましたので行つて見ると小山の上には宴會の爲に椅子が置かれ燈がともつて居りました、私はヘロデを其處に見出しました。

ヘロデはアイボリーの長椅子に、年の爲めの疲れと體も損はれて居つたので横になつて居られました彼の頭髪も鬚も染め油の香り高く、頭にはバラの花輪が飾られてありました、其室は貴族や偉人或は大僧正の令息などで充滿され、下婢は金のコツプにお酌をして居りました、柔かな樂の音の響き人々は、踊を見つめて居りました。踊り子はヂーマーでした喝采や叫びの中に二人の奴隷はヘロデの長椅子の後に私を導きますと、彼は長し目に私が見ました。私はシーザーの使を告げました。

彼は狂氣した樣に飛び起きて、泡をふいた口をつきつけて、

「これは何だ、宦者か、酒盛りの謀叛人か、お前は何だ」と云はれました。私は彼が自分を知らなければならぬこと、彼の友達であり使者であつた事、自分の持物を皆彼の手に任かせた事、彼の前で踊つて居る娘は自分のであつた事などを明言して彼の前に膝まづきました。これを聞いた彼の顏は再び變り

笑ひくづれて長椅子の上に倒れました。
「汝のか、何時汝のであつた、何が汝の物だ」
「汝はガリラヤから來た氣の狂つた牧羊者で、以前には毎々面倒をかけたアミエルだな、奴隷共彼を追ひ出せ」
私は無手で奴隷と爭ひましたが彼等は私を捕へてしまつた、私はテーマーを招いて自分に同情してくれる樣に懇願したが、彼女はベールの下から鳩の樣な目で見たばかりで、みじめな喜劇でも見るかの樣に物うげに笑つて、私の顏に散つたバラの花をなげかけました、これで命の望は絕え、私は失望して、もう爭はうとはしませんでした。
その後私はこの群をつれて往來を歩く樣になつてとう／＼お前さんの火の處迄やつて來て此處で休んだわけです、四人の牧羊者は驚いて彼を見て居たが
「それはニガ／＼しい話だ、そしてお前さんは大罪人だ」とヤーマが云ひました。
「それを知らなかつたのは馬鹿に違ひない、智慧が無かつた」と哀れな牧羊者は答へました。
「悔い改めなけりやならない」と一番年若のネーサンは物柔らかに云つた。
「人間に希望と云ふものがなくて、悔い改められやうか、自分の樣に凡てに失望して居る者が」と哀れな牧羊者は云つた。
「私は何にも望がない、もしなにか自分に事が來たら恐らく最初の望かも知れない、もし人間が自分の利益の爲でない親切な行爲を喜んでする愛を知る事が出來たなら私は其光に顏を向けませう。其れ迄は未だ見た事のない神樣をどうして信仰する事が出來るでせう」と氣の毒な牧羊者は云つた。
哀れな牧羊者は彼等の待遇を感謝して又羊の群を呼びながら夜路を行きました。ネーサンは二三歩ついて行つて云ひますに、
「小山の麓に破れた羊の圍がある、舊くて小さいが風も當らず靜かな隱所でせう、神樣と一緒にお出でなさい。これからはもつと仕合の日の來るやう

に」

アミエルは小山を下り羊を宿らして、自分も其中に這入つて組んだ腕に顔を當てゝ眠つてしまつた。彼はネーサンが石に躓づきながら走つて來たのに眼を醒ました。

「私達は幻影を見た、天使の不思議な幻影。彼等はイスラエルの望と云ふ歌を高い聲で唱つた私達はベツレヘムにこの事を見に行く所だ、留守の間羊を番して居て下さい」と彼は叫びました。

「私は天使は見たが何にも聞かなかつた。パンや火の御厄介になつたのですから自分のと一緒に汝のも番しませう」それで小羊を抱へ羊の群を後につれて塔の側の大きな圍の處に來て留守番をしました牧羊者は喜びに滿ちて歸つて來て、見た事を話しました。ネーサンは親しげに哀れな牧羊者の肩に手をかけて低い聲で、

「お前さんもベツレヘムへ行つてお出でなさい、留守番はして居ますから」

「私も行つて來ませう、汝方が見たものが見られるか、又歸つて來られるかどうかわかりませんが」とアミエルは云つて出掛けました。

その三

ベツレヘムの町は夜が明けかけて居ました、大きな旅館の中庭にも開放した室々にも、夜の眠からさめ旅に出掛けやうとして居る旅人が群がつて居りました、宿屋の側の半分穴になつて居る岩の厩の前では、人々が馬に鞍を付けるので大騒ぎでして、またわざと作へた樣な深い岩屋がありまして、その入口に驢馬が一匹繋いであつて、中年の人が入口に立つて居りました。牧羊者は挨拶をして名乘りました。

「私はナザレの大工のヨセフです、汝の兄弟の牧羊者が私共に告げたあの天使を見ましたか」とその人は申しました。

「私は天使なんか見ませんでした、又牧羊者の間に兄弟なんかありませんが。私は彼等が見たものを明瞭見たいものです」とアミエルは答へました。

「それは初めて私共に生れた獨り子です、一番高いものが彼をお與へになりました、彼は不思議な子お這りなさい、だが子兒と母のメリーが眠つて居ますから靜に」

メリーは小さい小兒の上に屈んで又靜かに歌を唱いますと、アミエルはぢつと考へながら記憶をたどつて居りました。彼が叱られた時に泣いて女の事を思ひ出しました、今彼の心はたゞその婦人にのみはせて居りました、彼女の膝の上の小さい小兒を見つめながら、きよき喜びの爲に靜かに唱つて居つた彼女の事を考へました、そしてその子は私自身でした。重荷であり苦痛であつた彼を育てる事が慰めを與へるものであり寶であるとして、耐へて居つた胸に彼を抱き上げた彼女を考へました。そしてその子は自分自身でした。毎日々々何年も愛の腕のうちに小さい子を養育し、彼のヨロ／＼歩には腰をかゞめ彼の喜ぶのを喜び、彼の涙を拭いた彼女の事を考へました、彼は一度でも彼女の涙を拭いた事はありませんでした、その子は自分自身でした。彼女は子の爲には何でもしましたが子は彼女の爲に何をしたでせう

彼は立上り三度敬禮をして靜かに岩屋から出て行きました。メリーは親切の眼をもつて彼を見送り、ナザレのヨセフは未だ戸の外で待つて居りまして。

「どうして汝は天使を見なかつたのかしら、他の牧羊者と一緒に居なかつたのですか」と尋ねると。

「私は眠つて居ました、而し私は母と子を見ました彼等を持つて居る家は幸福です」とアミエルは答へました。

「汝は牧羊者としては見馴ぬ風ですが、何處から來ましたか」とヨセフが云ひますと、

「遠い國、汝がまだ御存じない處から」とアミエルは答へました。

「今から何處へお出でなさるのですか」

「ガリラヤの私の父や母の居る家に歸るのです」

「それでは御機嫌よう」とヨセフは云ひました。

哀れな牧羊者は節のある杖を持つて、喜んで彼の家さして歸りました。（をはり）

本部報告

河井幹事は大阪女子青年會後援として先月十日大阪へ出張暫時同會に滯在それより事務調査の爲神戸に立寄り、尚上海日本基督教會の招待により支那に赴かる。

前號に報告せし如く移民事業資金に當てん爲來る十二月十五日土曜日午後二時より神田美土代町青年會館に音樂會を開催の筈なり、本部としては最初の催しなれば神の御祝福のもとに會員諸姉の御援助により、同會の盛會ならんことを希望す。

東京女子青年會報告

(一)バザー決算報告、純益金六百拾參圓參拾五錢也

總收入額六百六拾貳圓參拾貳錢也

內譯　金參百七拾圓四拾錢也　切符代
金六拾八圓五拾七錢也　寄附金
金貳百貳拾參圓參拾五錢也　賣上高

總支出額、四拾八圓九拾錢也

內譯　金拾圓也　印刷代
金四圓也　郵税
金拾參圓八拾五錢也　雜費
金拾五圓參拾七錢也　材料費

(二)風水害罹災者之爲。(一)旅行者之友主任林房子姉は東京府にて臨時組織せる救濟委員の一員となり數日間に渡りて罹災地を視察し且それが救助の方法等をも研究せり。(二)該事業の爲臨時寄附金拾六圓を得たり、是に九圓を加へ金廿五圓を東京府救濟部に送りたり。(三)會員諸姉より古着の寄附を仰ぎたるに左の諸點集りたり。單物廿六枚、拾九枚、小供着綿入七枚、襦袢二十二枚、下駄廿六足、足袋六十二足、古綿十一枚、小供帽子二個メリヤスシャツ、ズボン八枚、風呂敷二枚、毛布一枚、布切數十點、フトン表二枚、疊表八枚等、これが分配方法として種々協議の結果婦人矯風會に寄贈し其の所置方を依賴せし處快諾せられたり同會は來十二月四日月島に於て各支部より寄贈の

諸品を以て古着店を開き罹災者の爲安價便利に販賣せらるゝ筈なり。

(三)學生部委員會報告。十一月十二日午後會館にて開催す、委員十名餘出席して熱心に協議す、主なる議事としては。(一)中華民國女子留學生のため
(二)裁縫女學校其他體操科の設備なき學校生徒に體育奬勵の事。(三)女子學生に善良なる書籍を紹介すること等にて次回まで實行の方法等を待つて研究することに約して閉會す。

(四)仕事會。今迄毎火曜日午後二時より四時まで當會館にて時間の都合よき姉妹等集ひて各自好みの手仕事を持參し互に親睦しつゝ敎へ合ひ居たり。十一月二十日よりは赤十字病院の繃帶卷きの手傳をなす。

(五)體操科。十二月四日(火)午後四時より會館體操場にて面白き體操遊戯等を初む。新任敎師來朝せられし故大勢の姉妹等の來會を希望す。

(六)露國兒童同情會報告。會員等にして此の擧に多大の同情を寄せ、一口十錢以上の寄附金募集に盡力せられしが今回多大の金額が集りし故委員一同は此良き報告をなし感謝して止まざるなり。雜費を除き純益金七百壹圓拾貳錢也なり。是れが用途は初めより此の計畫に力を寄せ諸國漫遊せられしダクター、フイトモーアに一任して最良の場所に使用せらるゝ樣にす。

横濱基督敎女子青年會

去る十月十七日に、本會館で、バザーを開催致ました事は、先月の雜誌で御承知でございませうが、委しい事を申上げますと、バザー當日の曇天にも拘らず非常な盛會を極めました。バザー當日の出品は會員有志の諸姉にお願ひ致しました、各自家庭で製作された小間物、ヂャム、キャンデー、サンドイッチ等、會員諸姉の御手によつてなれるものが、其過半を占めて居りました。其他當市の陸、つるや、西村大和、山本、江戸屋等、諸商店からの出品もござい

ましたので賣店は非常に美事でございました。餘興は午前と午後と二回ございました。午前は洋樂ばかりでございましたが、午後は西川樂器店の御主人、西川安藏氏より踊の御寄附がございましたので午後の餘興時間には會館一ぱいの人で、大混雜を致しました。開館以來、始めてのバザーとて、結果如何にと會員一同は非常に心をいためて居りましたが、諸姉の御親切なる御骨折により、純益金四百八拾圓餘を得ました。意外なる好結果を得しも、これ皆、諸姉の御盡力の結果と、感謝致して居ります。

本會幹事にてあられしミスグリンは母君御病氣の故を以つて、十一月三日俄に御歸國なさいましたので一家の母を失ひし心地致して、何となく只今は淋しうございますが、ミスベーカーが御歸任遊ばしたので本會も以前通り賑やかになり喜んで居ります。

大阪基督教女子青年會

大阪の女子青年會は、今度、大阪市東區空堀通二丁目四十九番地に、いよ〳〵置かれました。私共は、細野とし子姉が此設立に際し、當地へ來られまして適任者のある迄、御助け下さる事を喜んで居る次第ですが、又、同姉の永く御滯在を願ふ事の出來ない事を誠に殘念に思つて居ります。又喜ばしき事は、河井道子姉が、當地へ御立寄り下さいました事です私共は、出來る丈永く、御滯在下さる事を、望んで居りますが、今度は不止得んので、支那からの御歸りがけに是非暫く御滯在を願ふ事になつて居ります扨て私共が女子青年の方々の少しでも御力になる事を希望致して居りますと同時に、女子青年の方々も私共を御求めになつて、おいでになる事を、何よりも滿足に思つて居ります。去る十一月十日の土曜日の午後に、當方で第一回の女子青年會を開きました。この集會には本年神戸に於ける女子青年會の修養會に出席されました方々、約二十人がお見えになりました。

其後數名の學生の訪問を受けました。又二名の三越

女店員が參りました。この二人は其前日、ミス、ハードが三越で御知り合になられた方々で、今後復、友達と共に來る事を約して歸られました。十一月十七日の土曜日には、河井、ハード、細町の三姉は、ミス、ボーランドの御紹介を受けて、鐘ケ淵工場を參觀され、河井女史は女工等に一場の講話をされました。去る金曜日の午後兼ねて御歸米中なりし梅花女學校のマッカワン女史の歡迎會に、ミスエマソン、ミスハード、河井の三姉お招かれになりましたが、河井姉には其處でも一場の講話をなさいました。

●●●●●**弘前女學校青年會**　夏休後の青年會はある光を與へられし心地致し候。毎月第一火曜日、青年會祈禱日及學校より特に與へられし時間などにて、修養會にて與へられし種々有益なる靈的土産を分ち居り候へば一同感謝致し居り候。過日東京に水害ありし際會員一同持てる僅の衣類など寄附し自分等の幸福を切に感謝致し候。萬國の爲設けられし祈禱週は豐なる惠の下に終りを告け候へ共之は終りに非ず以後一層萬國の爲に特に困難にある同胞の爲心より祈り得る日の初めと存じ候、歐洲祈禱日には特に獨墺國を加へ申候。慈善部の働は引き續き盛に候。言語の矯正には學校と青年會と協力にて努め或効果を認め嬉しく存じ居り候。

●●●●●●**遺愛女學校青年會**　當地では早や紅葉も風のもてあそふまゝに吹き拂はれ、雪は二度も降りました。朝夕の寒さは軒下に氷柱も並ぶ様になりました、これからは都の皆様の御經驗なさらぬ寒さに入りますが又皆様の御覽遊ばす事の出來ぬ雪景色の賜物が御座います、此頃は雨天續きや雨降りの爲道路が惡く荷馬車の爲堀られた泥路をおかして日曜學校へ參ゐりますので、下駄や足駄ではとてもたまりませんゴムの長靴（膝迄のもの）を穿いて參ゐります、此様子を都の方々にお目にかけましたら珍らしくお思ひの事と存じます、途中迄參りまして一歩も進められなくなります時には眞に泣き度なります。日曜學校に着きませんうちに疲れてしまひます、然し日曜學

校に參りますと生徒は「先生遲かつたのですね」などと待つて居てくれます、又惡路の爲來られないだらうと思ふ小さい子供でも、喜んで參りますので私共も非常に勵まされます、來る十二月中旬にはバザーを致しますので、毎木曜放課後各自一生懸命に働いて居ります、刺繍、袋物、縫物、編物、ミシンもの繪本等を作つて居ります。去る十月四日と十一日の兩日に渉つて修養會に出席致しました代表者の報告會がございました、私共は居ながら恩惠を分けて戴き修養會に參ゐりました心地が致しました。此頃通學生の祈禱會が盛んになつて參ゐりまして五十人近くも出席致します、晝飯後午後の時間の初まります迄の間に致して居りますが、少しの時間にでも神樣のお話を伺い度いと云ふ精神が充分現はれて參ゐりました、尙本部に切なるお願は幹事のお出を一同が待ちのぞんで居る事です御多忙中殊にこの寒い北海道へ迄の事で御座いますが、私共へもお出で下さいましてお勵まし下さいませ。只今爲替にて正會員六十七人の義務金壹圓三十四錢と會費の十分の一なる壹圓三十錢とをお送り申上ます、外に壹圓三十六錢は過日御申越になりました世界のペネーの分としてお送り致します。

●●●●●●●●**靜岡英和女學校靑年會**　本會は本年三月設立致し日尙淺く候へ共御恩寵の下に益々發展致し、殆んど全校の生徒が會員に御座候。毎週木曜日三時より集會を開き例會は第一木曜日に、余は宗教矯風、社交仕事の四部主催の下に有益なる集會を開き居り候、此度神戸に開かれたる修養會には會長御出席なされ當會にて得られたる力にて會員を指導し、今朝は新しき希望と力とにて會の進歩を計り居り候。殊に來る二十日より二十三日迄吾校創立卅週年記念有之其折催さるゝバザーの爲め、全會員己を忘れて働き居り候、この忙しき折にも萬國祈禱週を守り靜かに神と交り力づけらるゝ事も最も感謝致したる事に存じ候何卒當會が愈々發展しこの靜岡市に於ける一つの光となり多くの人々に良感化を及ぼし神の境を表は

す有要なる團體となり得る樣お祈り下され度候。

福岡英和女學校青年會　いつしからうら淋しい秋も過ぎんとして今日此頃は玄海から吹きすさむ風に、木の葉も散らされて時々は雨さへ加はり早寒さに迎つて居りますが、先頃は兼ねてお慕ひ申上げて居りました先生御來校下さいまして諸先生を始め私共一同は誠にうれしう御座いました、少時の集りにて御高説を承り各自が信仰を高められ人の爲になす樣にと力を加へられ、又日々喜んで凡てを爲す樣敎へられ實に青年會の必要を認め深くお勵ましを受けまして誠にうれしく存じます、以後は一層熱心なる祈りにより出來得る丈最善を盡して一歩〳〵進み度と存じます。

清流女學校青年會　いよ〳〵秋更けて寒くなつてまゐりました暫らく消息を等閑にして申譯がございませんでした先達は祈禱週目錄を御送り下さいましてありがたうございました會員一同喜こむで毎朝守りました、近況一寸お知らせ致します、毎朝早く寄宿舍の各室の室長が受持つて一日の仕事のため又青年會發展の爲めに祈禱會をいたします、其頃に成りますと方々で神を讃美する聲祈りを捧げる聲等して實に一種の快感を覺えます、此樣にして毎日毎日神に接しますので段々日一日と、青年會が發展して行く樣に覺えるのでございます又今度青年會の花園に花の種子十數種を求め目的を立てゝ蒔く事にして居ります來年の春の花盛りが待遠しう御座います、私共の青年會は只々各々の親より頂いたお金で以て維持して居るので御座いますので今度會員の發議によつて仕事會を開き其得た收入によつて慈善事業なり何なりをしたならば一層心から成つた誠の强い青年會に成るであろうと云ふ事に決定いたし毎週金曜の夜二時間其仕事會の時間に宛てました、材料は初めの內は糸紡ぎを致しました、慣れない業のことで御座いますから實に二時間の內に僅か許りしか出來ませんでした其夜私共は二時間一生懸命働いて僅か許りの收入で御座いましたから況して此內職で生活し

て居る人々の困難が此時始めてつく／＼感じられましたと同時に金錢を無駄にしてはならないと思ひました、此れは皆神様が此内職をして私共の心に囁き給ふたのであると思ひましてほんとうに其夜は感謝に明しました、糸紡ぎは餘り善くない樣で御座いましたから只今では眞綿の小さなごみを取る仕事をして居ります此れは實に見込みが宜しうございますからずつと永續いたすつもりで御座います、大事も小事から始むでございますから私共の仕事も段々擴張されて行く事と信じて只今は己れの仕事に滿足して日々感謝の日を送つて居ります、先達はあの金森先生の傳道會によつて私共は信仰が非常に熱して居りますけれ共、どうかして此熱した信仰を續けて行き度いと望むで祈つて居ります、どうぞ本部の方々又他の方々も此清流の信仰の冷えないで益々發展する樣にお祈り下さる樣お願ひ致します、終りに他の支部の發展も祈ります。

●●●●●●●●●●●ウヰルミナ女學校青年會　水曜日午前講堂と教室と交代にて例會を開く、講堂の場合には校内の先生或は校外の知名のお方々に御講話を願ひ、教室にては生徒の内より變る／＼司會のもとに熱心なる會合を開く。會の店は依然として繼續す。前週は萬國女子青年會祈會なりし故、毎朝靜肅に祈會をせり。

●●●●●仙臺尚絅女學校　同校大講堂新築落成し三十年祝賀會を開く十一月廿三日學生大會を開く。

●●●●●廣島女學校青年會　青年會の母とも慕つて居りました高森先生が去る十日に家事研究の爲渡米なされ會員一同は悲しんで居りましたが、常に見捨て給はぬ神は我等に一人の新しき鹽見先生をお送り下され一同再び新しき元氣と、勇氣とを與へられました、鹽見先生は此校に青年會の基礎を置き、大いに青年會の爲に盡して下さつたと云ふ事を聞き、一層喜ばしく感じました。神戸に開かれました青年會修養會に出席し新しい希望をもつて、歸校致しました、此學期こそは青年會に興味を與へ度いものと全員力を合せ、祈禱部、訪問部其他八ツ程の部に分けて各長

が責任を持ち、適當な時間を見出し、各部生集會を開き月に一度全體集まつて報告の樣な事をする樣定めましたが、善い結果を得ませんでしたので、終に只今は組々で祈禱部、訪問部等に分けて、一週に一度づゝ組々で種々なる方面に於ける集會を開く事にして各部の委員長は出來るだけ其集會に出席して居ります、今迄本校創立三十年紀念祝賀會の準備の爲に忙しく、未だ好結果を御報告申し上げる事が出來ません。喜ばしく思つて居ります事は、日曜日の午後五時半より寄宿生會員の祈禱會で御座います、平均二十五六名の有志者と共に祈り、親しく話し合ひなどして有益に僅かな時間を過ごす事が出來、且つ多數の者は此會に集ふ毎に青年會に對しての責任を一層深く感ずるといふ事を聞き喜んで居ります。今一つは幹事會の盛んになつて來た事です、東京橫濱の樣な都とは違ひ、當地は未だ青年會の事業の如何なるものかを、明かに了解されて居らない土地にも拘らず、青年會の主催として小さいながらバザーを開かんと計畫を成し、忙しい時間をさいて熱心に働かれる事であります。先日河井先生が下關よりのお歸りにお寄り下さいました時も、有志の者が五六名集まつて仕事をして居りました時、先生に其場にお出を願ひ種々なるお話を伺ひながら喜んで致しました。精神一度到らば何事かならざらん、此の古き句を新しく共に味はつて、會員一同は增々青年會の爲に盡し度いと思つて居ります。特に近日開かんと計畫されて居るバザーの爲に成功を祈られん事を。

萬國女子青年會祈禱週は鹽見先生の御熱心により每日午後十二時半より會員有志者集まり小さき祈を捧げる事が出來まして喜ばしく思つて居ります。

●●●●●**女子英學塾青年會**●●●●●　たとへ小さい會とは云ひ大なる幹なるキリストに連り絕えず養分を主より戴き每日成長發育して參ります事を眞心より感謝して居ります。目下の會員數は正會員が六十三人準會員が百〇七人ございます、去る夏季修養會には十人の代表者及多くの姉妹方を送ることが出來ました、そして

十月の始めにその代表者の有益なる報告を伺ひまして非常に得る所がございました、來らん年にはより多くの代表者及姉妹方を送りたいと思ふて居ります一學期毎に二度の大きい集會を開きまして名氏の方の御講話を伺ふことに致して居ります十月十九日にその集會を致しまして生江先生より細民の生活狀態及保育事業といふ題の下に有益なる而も實際的な御話しを伺ひました。この他祈禱會及讃美歌禮拜も致します。讃美禮拜は今學期始めて試みたのでございまして、已に十月の十二日と十一月八日と二度致しましたがかなりの盛會でございましたので、ほんとうに希望に充ちて益々盛にして行きたい考でございます。寄宿舍には毎日曜日午後七時より南北東の三寮舍合併で一時間の間祈り會を致します、二三の讃美歌につゞいて熱心なる司會者のお勸めや燃え立つ樣な祈禱や有益な御感話等がありますので眞に一週間中の靈の糧を豐かに得ます。

聖書の組は三年生はミスマクドナルド、二年生はミスページ一年生のためには卒業生の方にお願して毎週盛んにやつて居ります。豫科には三年と二年の有志の者がお敎へして居ります。萬國青年會祈禱週は例年の通り十二時半より或は朝七時半より役員の代る〳〵の司會の下に開きまして暫しの間なりとも自分を忘れて廣く世界のために祈り求める事が出來ました事を非常に喜んで居ります。先日の暴風雨の罹災民のために役員の者が有志の方より古くなつた着物とか或は金錢などを集めて送りました、多くの人が大なる災に會ひましたにも拘らず私共は無事に神に守られて居りました事を感謝すると同時にこの際私共の同胞に十分なる同情を寄せ、大なるキリストの愛を彼等にあらはしたいと努力して居ります。その他パレアナや暗路の燈などゝいふ宗敎雜誌を買ひましてセントルカ病院の患者のために送りましたこれ等の本によりまして靈肉に病みある人々がいやされ救はれて、エスの御國の民となられん事を切に祈つて居ります。

青山女學院青年會　私共の青年會は相變らず微々たるものです四月のはじめ會則を改めましてから、御報告申すほどの目立つた働をいたしません。唯一學期と二學期に一回づゝ小さいバザーを開きましたまた十月の初に暴風雨罹災民のため寄附金及古着などをつのり、現金七十八圓五十六錢、及古着三百點以上を救世軍の手を經て送りました。

集會は手藝部に於て成功を見て居ます、專門科女學部等の集會は數に於ては悲しむべきもので御座いますが、集る少數のものは眞に眞面目でありまして、靈の賜を得て散じますのが常で御座います。此度の萬國青年會祈禱會は毎朝八時より八時半まで靜かな講堂で開かれました。集會者約五十名はすべてを忘れて眞に神と交りまた靈的に萬國の會員と交るの感を與へられました。

十日（土曜日）午後澁谷の志立夫人の御宅で、私共のために特に御開き下さいました茶話會の御招ぎをいたゞきましたので、大よろこびで役員委員十一人ばかりで伺ひました美しい西洋間の暖いファイヤープレースをかこんで河井先生や志立夫人からいろ／＼有益な御話を伺ひましたり、我青年會に關して御奬勵をいたゞいたり、打とけて樣々御物語りなどいたしました。

御夫人が御心づくしの御茶の御馳走になり、美事な西洋名畫など澤山に見せて頂いて、たゞ／＼樂しく時間の立つのも忘れる位で御座いました、時間に制限された寄宿生の身とて、もつと／＼御話を伺ひたう御座いましたけれど「學校の規則を破らぬやうに」との先生の御注意におしい御名殘りを告げましたのは四時半頃で御座いました。「もつと／＼青年會のために働きませう」「もつと青年會を有益なものにしませう」と皆いきごんで歸りました。

プール女學校女子青年會　祈禱會、諸姉は熱心なる信仰のもとに祈つて居ります、殊に今週は萬國青年會の爲祈會開かれ皆一生懸命に祈りました。

博愛社、今年の暴風雨災害の爲幾分なりともお助け

するつもりにて時々古物を集めてお送り致します。

慰問部。係りの先生此度學校をお止めになりましたので困つて居ります、よき係員の與へられん爲にお祈り下さいませ。

紡績女工傳道。學校僻地故夜は少々危險なりとて校長よりお許し下さいませんので、委員等は殘念がつて居りますけれども尙工女等の爲に熱心にお祈りして居ります。善き働人の爲お祈り下さい。

十一日日曜日始めて日曜學校を新校舍にて開き、大勢の子供を神樣より集められて一同感謝致して居ります、修養會に集まつた諸姉等より大なる覺醒を與へられ大いに奮發せんとして居ります。皆樣方のお祈りを願ひます。神樣は「求めよさらば與へられん」とのお言葉を下さいました、眞に有難い聖句でプールの如き小さい青年會には、殊に慰めのお言葉で大に皆はげんで居ります。

●●●●●●●●

神戸女學院青年會　わが青年會に於ては各部に責任をわかち、大いに活動しつゝあり。財政部にては吾等青年會の活動の一原動力を得、一には義務金を果さん爲一週一度の仕事會を催し、手仕事を爲すは常なりしが、數名の有志家は時間少なき寄宿舍生活のその勉强時間をさきて、或は運動服を作りナフキンを作り、或は小さき細工物など作りて、吾等の精神界に於ける働きを背後より祈りと共に物質を以て助けらるゝは、我が青年會員を勵ます進軍ラッパの如し、歐洲戰亂の時に際し會員は、集會に、密室に、これが爲厚き祈りの絶ゆる時なけれども、近くは特に佛國の同情すべき兄弟姉妹の爲クリスマスプレゼントとして寄附を募りたり。タヲル、ハンカチーフ、石鹼、齒磨粉など多くの日用品に加へて、また愛らしき姉妹の眞心こもれる可愛らしきお人形など金高に算すれば、殆んど百圓に近き贈物を赤き心と共に彼の地に送りぬ。

精神界に於ける働きは、外には神戸近邊の女學生の親睦を圖り、鐘ケ淵紡績の工女諸子を神に導き、また電話交換手姉妹にも神の御惠をわかたんとの目的

なれども、悲しきかな外部に於ける働きの好機會を得難く此學期は内部傳道にとゞまり、院内の青年會員ならざる諸子を誘導しつゝあり。されども互の信仰も薄く、力も足らず、智慧も少なき者なれば、全國に於ける多くの會員諸姉の厚き祈に待ちて、幾分なりとも神の爲、人の爲に働く目的を實現したきものなり。

青年會祈禱週は校内運動會準備の爲最も忙しき時なりしが、御親切なる先生方より便宜を與へられ、毎日すべてを忘れて靜に而も熱心に祈禱會を開くを得しは、實に會員の眞面目なる信仰を表せるものゝ如く覺えて、神の御力をたゝへまつりぬ。

●●●●●●●●**東洋英和女學校女子青年會** 一、暑中休暇以後第一回青年會集會で去る七月神戸及び仙臺に開かれました修養會に出席した會員七人が各得て來ました智識又は感じたお話等を會員皆樣にお傳へ致しました

一、去る十月二十四日禁酒會々長安藤太郎先生をお招ぎして禁酒事業に關して有益なお話を承りました、猶來月十二日には小菅監獄の有馬典獄にその御事業に就てお話し下さる樣お願致しました所早速御返事下され「獄内キリスト教信者」の事につきお話し下さるとの事で皆々今より樂しみに致して居ります。

一、此度の暴風雨水害罹災民救助の爲としては金十圓を青年會本部にお賴みして有益にお使ひ下さる樣お願致しました其他矯風部の働として生徒方から古い衣類及び必要品を集めて矯風會本部にお送り致しました。

一、ロシヤ兒童の爲めには顧問ミスケギーの御發議に依り青年會本部から材料を頂き服を縫ふお手傳を致しました。

一、去る十一月二日學校で天長節祝賀文學會の開かれた時バザーを致しまして種々の細工物を賣り三十六圓八十錢の純益を得ました又去る十一月八日運動會の際僅かばかりお菓子(キャンデース)を造つて賣り二圓程純益がありました。

一、夏休に得ましたタラントマネー（御承知の方もございませうが是は會員の中の有志者が會から一人二十錢宛でお金を受取りこれを休暇中に何かの方面に働かせて利を得て來ること」は元金六圓で十四圓二十錢で御座いまして倍以上の利益で大成功で皆喜んで居ります。

一、今週は祈禱週で會員その他の方々と毎朝六時三十分から七時迄講堂で早天祈禱會を開きまして題目に應じて日々他國の人々の爲めに熱心に祈りました。

ともがき

長崎　永田喜知子

先日は圖らずも久振りにて河井先生の御溫容に接し御熱心なる御講話伺ひ誠に有難くうれしく存じましたこんなに刺戟の少ない所に居りまして小供多く修養の時間もほんとに見出し兼ねる樣な生活を致して居ります私はいつしか信仰もにぶり廣い考をもつ事が出來ず唯目前の仕事に追はれて神樣より遠ざかりました昔の樣に自分の罪に泣く樣な事は殆どなく家庭の事にお祈りは致しますけれども熱心が足りなくなつて居りました何卒もつと內容の充實した信仰のうるほひある人間になりたいと願ひつゝも其日〱をづる〱と過して參りました時に思ひがけなく先生の御來崎を伺ひ飛立つ計りうれしく此度こそは靈の糧を多く頂きほんに新らしき人となりたいと存じお話の一句をだに伺ひ洩すまじと熱心に御敎に耳を傾けました初めてほんとに自分は主のお敎にそむいて居つた愛が足りなかつた自分の信仰の土臺の如何にも砂であつた事に深く氣が付きましたけれどもそれに依つて眞面目に淚をもつて神樣にお祈りもお詫もする事が出來ました基督にたちかへる事が出來ましたそして雨風をおかして今度はほんとに生れ變つた心持で敎會の婦人會のお話を伺ひに參りました所誠に〱適切なお話で一入自分を省みこれから勵まんとする心を與へられました何とお禮を申上てよいか解りません唯神樣のみ此心を御存じと思ひます此度の御來崎により眠れる幾多の信者を醒ましほんとに神にたちかへつて己が罪に泣いた人は私ばかりではないと確信致します實に聖書に依らずば居られなくなりました又近來味ふことの出來なかつた何とも云ひ知れぬ靈界の神秘にふれる樣な氣持になる事が出來る樣になりましたこれからは愛をもつて敎會の爲にも家族の爲めにも祈り自分を向上さして行く事に努力致します。

消息

○河井幹事　先月十日關西に立寄り支那へ出張

○ミスゲーンス　廣島女學校々長の同氏は過日女子高等師範にて開かれし全國高等女學校校長會議に出席の節、廣島女學校出身者の親睦會を十月十一日東京青年會にて開かる。

○木村氏（神戸女學院敎師）は校長會議出席の爲め上京さる。

○細野すゞ子　女子大學出身ミスフイリップスの曉星寮に居られし同氏は大阪女子青年會を暫く助けらる。

○宮川幹枝姉　は同志社教授島原逸三氏と此秋結婚されしとの事、同姉は昔より女子青年會に盡力されし方にて格別同志社女學校の先生として、同校の支部を御指導下されし方なり。

○廣岡淺子夫人　は去る十七日同志社女學校主催の講演會にて講演さる、河井幹事も出席されたり。

○同志社女學校　にては新任校長水崎基一先生熱心に青年會を御奬勵下さるは喜ばしき事なり。

○井出菊惠姉　無事着米、ボストンに近きオーナットヒルスクールにて勉學。

○河口正子姉　宗像氏と結婚さる。

○千葉しな姉　助川氏と結婚さる。

○新渡戸すづ姉　は本部にて事務研究中。

○岩本昌子姉、ミスガンターにつきタイプライター勉學中なり。

○小池實代姉　女子大學辭職郷里伊豫に歸らる。

○ミスホンダ　體育部主任として來朝。

○ミスグリーン　母君御病氣にて歸國さる、一日も早く御全快遊ばし再び御來朝を祈る。

○ミスペーカー　横濱青年會幹事なる同姉は母君御病氣にて御歸國中の處此程母君御全快遊ばされ先月十九日再び御來朝同會の爲御盡力下さる事をよろこぶ。

○ミスエドナカフマン　本會幹事ミスカフマンの御妹君にて今春來遊されし同姉は先月三日歸國さる。

○露國女子青年會創立の爲米國より八名の幹事、露國に送らるゝの途路我國に立寄り青年會を訪問さる我國にて食料品、運動器具等を購買され露國に向はる。

○盛岡タピング氏　頌榮幼稚園事業擴張にて御多忙。

○寄附金及會友會費領收　（本部報告）

（但し十一日雜誌編輯〆切迄）

梅花幼稚園女子青年會、岡見けい子　春日咲子　石塚忍　井街てる子　今井きぬ子　渡邊夫人　山本多喜子　函館遺愛女學校　太田秀　廣島女學校　女子青年會　横濱女子青年會

○雜誌代領收

田丸よね　廣島女學校女子青年會　青山女學院女子青年會　盛岡女子青年會

東京會員の雜誌代金は東京青年會の方よりまとめて參りますから別々にお名前を載せませんけれ共雜誌の參ります限りはお受取り致しましたものと思召し下さい。

電話と振替

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會本部
電話本局五九八番
振替東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅		内地	海外
一部		金八錢	金拾壹錢
一年前金		八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

半年極又は回數により割引有

大正六年十一月廿八日印刷納本
大正六年十二月一日發行
神田區北神保町十四番地
發行所　日本基督教女子青年會
神田區北神保町十四番地
發行兼編輯人　河井道子
芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉太郎
芝區櫻田和泉町七番地
印刷所　三成舍

the Governor and explained the Association work in Yokohama and Nagasaki and asked for his co-operation. He was most cordial and said there was an organization called the Far Eastern Commercial Corporation, which looks after the interests and families of those who leave Japan for other Asiatic points. He said that this organization would gradually include emigrants going to Hawaii and America. He was glad that someone was willing to help these emigrants before they left Japan and after they reached their destination. Miss Ellis' work on Angel Island was a revelation to officials wherever it was spoken of, and naturally this wonderful work started in America makes the Japanese people realize that they should do their part here in Japan.

FUKUOKA.

The next point visited by Miss Kawai was Fukuoka, which is the educational centre of Kyushu Island. Here, there is an Imperial University and many government and private schools, and the famous commercial city Hakata is separated from it only by a river. Both of these cities are on a beautiful bay, which is now being dredged in order to have foreign ships use it as a port within the next ten years. The people are wide awake on both educational and commercial lines. These cities have a great deal of business with foreign lands and their interest in foreign things is naturally increasing year by year. Miss Kawai was asked to visit the Eiwa Jo Gakko, where the first Y.W.C.A. branch was started in Kiushiu. The principal of this school, Miss Elizabeth Lee, took Miss Kawai to see the Governor in order to inform him what is being done for Japanese women who go to Hawaii and America. Again the Governor was surprised and delighted when he heard about the California work, and also about the future plans of the Y.W.C.A. for emigration work. He said he would speak wherever he went on the importance of proper preparation for Japanese girls before leaving Japan for America. He was glad to hear that Miss Lee would gladly co-operate in this work and if any girl happened to come to the Government Bureau to ask about the necessary preparation, she would take charge of the girl and give her special instruction. It was very fortunate that the National Committee had published a booklet called "A Lighthouse for Persons Going to America," composed of fifty pages. Miss Kawai was able to distribute them very widely during her trip.

The main object of Miss Kawai's trip was to arouse public opinion as to the necessity for preparation before leaving Japan. It will in all probability be necessary for her to revisit these places, but the seeds are sown, and Christian people everywhere are most anxious to help with this work.

Miss Kawai left Tokyo November 13th. She will first visit Osaka and will then go to Kobe to see what can be done in response to the call of the Kobe Christians for emigration work at that port. After that she will go to Shanghai for two weeks' evangelistic work under the auspicies of the Japanese Presbyterian Church.

OSAKA.

The Osaka Association is now open to all its friends at 49 Karahori Dori Nichome, Higashi Ku. We are rejoicing in the presence of Miss Toshi Hosono, who has so kindly con to help the Association in these earliest days until a more permanent person came be found, and we are regretting the fact that her stay must necessarily be so short. We have further cause for rejoicing in a few days visit from Miss Kawai; we are making the most of the time she can give us now, and are already looking forward to a longer visit from her upon her return from China. And by no means the least of our joys lies in the fact that we are beginning to find the girls and the girls are beginning to find us. The first regular undertaking is a Bible class which Miss Emerson is to have every Monday afternoon for the girls in Mr. Furuya's English School, a class of girls who have finished school but want to learn more English, girls of leisure. The first Association party was held on Saturday afternoon, November 1[illegible], when about 20 of the girls who had attended the Summer Conference at Kobe came here for a reunion and good time. During the week a number of the students have called, and one evening we had a most delightful visit from two of the girls from the Mitsukoshi store, whose acquaintance Miss Hard had made the day before; they expressed a desire to call again and we are sincerely hoping they will do so, and bring others with them. On Saturday morning, November 17, Misses Kawai, Hosono, and Hard went with Miss Holland to visit the Kanegafuchi Factory, where Miss Kawai spoke to the girls. The afternoon before she had spoken to the girls at the Baika Girls' School, where she with Miss Emerson and Miss Hard had been invited to a Welcome Party for Miss McKowan, who has just returned from Ameaica.

With such simple and natural openings is the Osaka Association able to begin its work, and for these very openings it renders sincere thanks to the Giver of All Good Gifts.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIV — DECEMBER, 1917 — NUMBER 11

EMIGRATION.

NAGASAKI.

There are three ports in Japan from which emigrants embark, Yokohama, Kobe and Nagasaki. The emigration work of the Y.W.C.A. was established last year in Yokohama with a view to educating the public along these lines and later introducing the work in the other two ports. Miss Matthew, National General Secretary, asked Mr. G. E. Trueman of Nagasaki to see what she could do to help Japanese women leaving from that port for America. Mr. Trueman is General Secretary of the Y. M. C. A. in Nagasaki, so his wife has entree to many well known homes there. She, with the help of two ladies, whose husbands are Christian leaders in the community, used to go to the Ken-cho (Government Office) to talk to the emigrants while they were waiting for their physical examination in that office. Dr. Imai who has charge of these examinations is in full sympathy with the work and at one time came to Yokohama to see our Y.W.C.A. work there. Neither the authorities nor the business men wish to have our Yokohama work advertised too widely in Nagasaki. They feel that perhaps it might lead the emigrants to go to Yokohama to embark, and in consequence Nagasaki would become unpopular with them. They said to Mrs. Trueman that they would help with all their might if a similar work was begun in Nagasaki.

On their invitation Miss Kawai left Tokyo for Nagasaki on the eighteenth of October and remained in that city until the 25th. During that time she was able to have a big public meeting where she, the Governor of the Province, and Dr. Imai addressed the people on the subject of emigration, and what has been done by the American Y.W.C.A. for oriental women in California in co-operation with the Y.W.C.A in Japan. These talks were not limited to emigration, but were more on the friendly relationship between America and Japan, and how Japan should help her people to eliminate objectionable qualities before going to America, and acquire desirable ones. Miss Kawai was invited to the Kasui Girls's School (Methodist Episcopal), the City High School, and the Government Normal School to speak on education and to present the women's moment in general. She was also able to introduce the Y.W.C.A. in a public meeting and also at the W.C.T.U. monthly meeting. Mrs. Trueman arranged two parlor meetings for her, one for foreigners resident in Nagasaki, and the other mostly for Japanese to consult and discuss how best to build up the emigration work in Nagasaki. At the latter meeting there were over twenty people present, including three Government Officials. Everyone was most enthusiastic to have the work well organized, but the three who had the practical idea were the three ladies who had been working with the emigrants in the government building and also in the hotels. It is said that if each person who leaves Nagasaki for America spends twenty yen in preparation, the total amount spent in that city by these emigrants amount to some eighty or ninety thousand yen a year at this time. This item, therefore, cannot be overlooked by business men, and they are very much interested from a commercial point of view to have as many emigrants as possible leave from Nagasaki.

A committee was formed to carry on this work composed of three ladies from the W.C.T.U., three ladies from the Ladies, Auxiliary of the Y.M.C.A., forming the Executive, with seven or eight to be added as advisors. It is not yet time to establish a Y.W.C.A. Nagasaki is very hostile to Christianity. The first Christian persecution, and the execution of the Jesuit missionaries took place in that city over three hundred years ago, and with that prejudice in the minds of the people Protestants have a very hard time in making headway. The Roman Catholics are very strong, likewise Buddhists. It is regrettable that the Catholics do not uphold their moral integrities so that the name "Christian," whether Roman Catholic or Protestant is not respected in the community. The Protestant churches are usually small, with few members, and they have much as they can carry along Christian lines, so that to start another Christian organization like ours would only add more responsibilities to the heavy ones they are now carrying. However, we know the time will come when we shall have a flourishing branch association in this city, for there is a big field for girls and women.

KUMAMOTO.

On the 25th Miss Kawai went to Kumamoto on the invitation of Miss Carrie Poole of the Methodist Mission Board. This province sends the second largest number of emigrants abroad, and nothing has been done for them. They visited

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

和本

基督教とは何ぞや	■石坂龜治著	.05–.02
基督の事實	■シムプソン著	.40–.04
讃美歌歴史	■海老澤亮著	1.00–.08
ナザレの人	■柏井園譯	1.00–.08
教師及教授法	■バークレー著	.20–.04
宗教々育指針	■ファウスト博士著	.45–.03
人格不能論	■田中達著	.30–.06
日々の力	■根本正著	.25–1.00–.08
ヘレンケラー嬢吾身の物語		.50–.08
耶蘇の人格	■フォスディック著	.60–.06
靈交錄	■フォスディック著	.80–.06
朱と紫	■富永德磨著	.25–.04
神の我	■エインズレー著	.15–.02
はなしの園	■古谷新太郎著	.25–.04
苦痛の秘義	■ブルークス著	.75–.08
信仰の勸め	■武本喜代藏著	.10–.02
ベテレヘムの厩	■宮川了山著	.25–.04
人を導く人	■ゴルドン著	.90–.08

文具

Bible and Hymns (和洋聖書及讃美歌)

Sunday school Supplies (和洋日曜學校教材一式)

Stationaries

Writig Pads	(書翰紙)
Envelopes	(封筒)
Note Books	(手帳)
Fountain Pens	(萬年筆)
Paper Fastener	(紙綴器)
Embossers	(文字浮出器)

洋書

Alexander's Hymns No. 3.	.58–.06
Alexander's Gospel Songs	.58–.06
Christ in Everyday Life…Ed. 2. Bosworth	1.35–.08
Christian Standards in Life…J. L. Murray & F. M. Harris	1.35–.08
English Grammar Simplified…J. C. Fernald	1.65–.08
Good Health…F. G. Jewett	.92–.08
Illustrative Teachings of Jesus…Geo. H. Young	2.20–.08
Life and Teachings of Jesus…Ch. F. Kent	2.90–.08
Manhood of the Master…H. E. Fosdick	1.35–.08
Meaning of Prayer…H. E. Fosdick	1.35–.08
Milton, The Poetical Works of John	.85–.06
Mrs. Browing's Complete Poetical Works	.85–.06
Music and Other Poems…H. Van Dyke	2.20–.08
New Educational Music Course… Intermediate Song Reader…J. M. McLaughlin	.74–.06
New Testament of Our Lord & Saviour Jesus Christ with Notes	.88–.06
Outlines of Composition & Rhetoric	2.30–.08
Patience of God…E. A. Burroughs	.45–.06
Paul in Everyday Life…J. D. Adam	1.35–.08
Pupil and the Teacher…L. A. Weigle	1.10–.08
School'yard Athletics…J. E. Sullivan	.30–.04
Seaside and Wayside, No. 1…J. M. Wright	.60–.04
Self-Reliance…D. C. Fisher	2.20–.08
Student Standards of Action…H. S. Elliott & E. Cutler	1.35–.08
Study of Child-Nature from the Kindergarten Standpoint… E. Harrison	2.30–.08
Care and Feeding of Children…J. L. Morse	1.10–.08
Care of the Sick Room…E. G. Cutler	1.10–.08
Care of the Skin…Chas. J. White	1.10–.08
Care of the Teeth…Chas. A. Brackett	1.10–.08

東京京橋區銀座四ノ一　教文館 (KYO-BUN-KWAN)　振替一一三五七　電話京橋二五二

後付二

歳暮御贈答品は

北海屋の新巻鮭と
鹽數の子は好適品に御座候

弊店の特賣品

- 大阪蒲鉾　薩摩揚
- 味付いかかき鹽辛
- いか鹽辛　鹿兒島車蛯
- 花折昆布　だし昆布

其他お正月の食料品種々取揃申候間何卒御用命被下度御一報次第御配達可仕候

東京市四谷區傳馬町一丁目二十四番地

各地名産
食料品卸小賣

北海屋山本商店

電話番町一八六五

女子青年界第拾四巻第十一號（毎月一回一日發行）

大正六年十一月廿八日印刷納本　大正六年十二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

復刻版　女子青年界　第8巻

1992年7月10日発行
本体価格　22、000円

発行者　船橋　治
発行所　不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113　☎03(3812)4433
印刷所　三　進　社
製本所　青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。